

政治について 話そう！

Prata Politik 日本語版

学校で民主主義を

語り合うための教材

スウェーデン若者市民・社会庁

訳者 轡田いずみ・リンデル佐藤良子・両角達平

目次

- 学校がその基礎におく価値観と「民主主義のミッション」
ー政治についての対話に学校で取り組む際の、その基本となる規則とガイドラインについて
- 実施前：取り組む前に考えること
ー政党が来校した時の生徒と教職員の対応について
- 実施：みんなでやってみよう！
ーやり方、ヒント、議論で使える生徒・職員への質問
- 実施後：評価とフォローアップ
ー政党が来校して実施した活動の評価する方法
- 学習事例

まえがき

本教材『政治について話そう!』は、あらゆる若い人たちと関わっているあなたに向けてつくられました。この本を手にとったあなたは、もしかしたら若者と政治について話すための新しい視点が欲しいのかもしれませんが。そんなあなたにインスピレーションを与え、そのやり方を伝え、学校で政治を扱うための「勇気」を出してもらいたいのです。

この本の目的は、学校における政治の対話を可能にし、政党を学校に招こうとする教職員のサポート/支援となることです。その目的を達成するためにこの本では、政治・政党の考え方、若者の意見、若者の影響力、そして民主主義社会における若者の役割について問いかけます。

日常生活や学校、そして学校の外にあるあらゆることが若者に影響を及ぼします。若者にかかわるあなたは、若者の生活に影響を与えることができ、そして変化をもたらすことができるのです。あなたにはその使命があります。今がチャンスなのです!

スウェーデン若者市民・社会庁 事務局長
レーナ・ニーベリ

はじめに

政治についての情報はどこにでもあり、学校も例外ではありません。生徒達は日々の生活の中で、新聞やソーシャルメディアから政治的なメッセージに触れています。

政党や協会・団体にとって学校は若い人と接触し、結果的に新たなメンバーを迎え入れたり、特に選挙は投票につながる重要なチャンネルの一つなのです。学校は、子ども・若者が知識を活用する場所になるという役割に加えて、「出会い・交流の場」であり、若い人が多くの時間を費やす場所なのです。おそらく学校は生徒が初めて地域の政治家や、若い政治家と出会う場であり、社会がどのように機能し、子どもの権利条約で保障されているどんな権利が自分にあるのかを学ぶ場所なのかもしれません。政党や組織が生徒と出会うことができる開かれている学校というのは、生徒がそれぞれの人生を歩むうえで必要となる新しい考え方を学ぶ場所となります。政党の公約を使って生徒にとって重要な事柄と関連づけるのも一つの方法でしょう。

学校で政治についてディスカッションをすることや、政党を学校に招くことは新たな問題を提起します。学校はどのようにすれば政党を同じ条件の整う環境を確保して招くことができるのか。教職員はどのようにすれば、偏りが出ないようにすべての政治の争点に触れることができるのでしょうか。価値が中立ではない学校において、議論が許されていることは何を意味するのでしょうか。

本教材の目的は、学校における政治の対話を体系的にかつ良質に実施しやすくすることにあります。また、政党を学校に招こうとする教職員のサポート/支援となることです。本教材を手にとっているあなたは、長い間、政党を学校に招く取組を続けてきたかもしれません。あるいは、新たな視点が欲しいのかもしれません。あるいは、社会科教育の教員として初めて、学校で政党ディベート大会を担当することになり、どうすればいいか、その方法やヒントを探しているのかもしれません。本教材が政治についての情報の扱い方や、学校へ政党を招待する助けとなり、インスピレーションとなることを願います。本教材は様々なアプローチと視点、そして具体的な方法とヒントを提供します。

本教材について

本教材は、学校で政治を扱う際の、最良の情報提供の方法を決定づけるものではありません。学校現場で働くのは職務の専門家である教員、職員のあなたです。教材から自分の学校で使える部分や、使えるようなディスカッションのテーマを拾ってみてください。本教材は、同僚の教職員と議論し合える論点も提供しています。学校で政治を扱うことを教職員で一丸ととなって取り組むいい機会になると捉えてはどうでしょうか。実践をお互いに評価しあい、本教材で扱っている課題とテーマについて議論して教え方を開発してみましょう。

本教材は、社会科の教職員のためだけの教材ではなく、全ての教職員のための教材となることを意図して作られました。全ての学校が政治についての対話をするための空間を創出することを刺激する教材なのです。

教職員同士の学び合いは成功のための重要な要素です。これが意味するのは、教職員が体系的に分析をし、自分や他の教職員の活動を評価し合うことで新たな知識を獲得するということです。

教職員同士の学び合いには様々な方法がありますが、学校教育庁¹は調査研究と現場実践に基づき、長期的で体系的な方法を用いることを勧めています。

あなた自身の学校での経験は、新たな知見のために重要な資料となります。ですので、この機会を利用して同僚の教職員が安心して評価をしあい、議論を深め、自らの活動を発展させる環境を作り出しましょう。

自らの活動を発展させるために本教材を使いましょう

ほとんどの（スウェーデンの）学校には政党や政治の情報提供についての独自の方法があります。本教材『政治について話そう!』は、既にある取組を補強するために使うことが可能です。学校での政治の取り扱いが継続し、国の目標に沿って計画がなされ、フォローアップをし、さらに発展させていくには「自己評価システム」を実施すると良いでしょう。

参考になる読み物

Skolverket, Eva Minten & Per Kornhall.
Forskning för klassrummet: vetenskaplig grund och beprövad erfarenhet i praktiken.,
2013.

<http://www.skolverket.se/publikationer?id=3095>

1. 学校教育庁（Skolverket）とはスウェーデン政府の教育省に位置する学校教育政策を管轄する省庁

本教材の構成

本教材は、4章に分かれます。第1章は、学校がその基礎におく価値観と「民主主義のミッション」、そして学校で政治について話すことがなぜ重要なのかについて扱います。以降の章では、「実施前」「実施」「実施後」にわかれます。このように章を分けている理由は、学校の活動でどのようにして政治についての対話に取り組むことができるのか、実施前後に何をしたらいいか提案をするためです。実施方法、具体例、そして議論の論点は、様々な方法によって活用されます。もちろん実施過程は必ずしも常に直線的ではありません。

あなたの既に実施している取組から始めて、改善するのに最適な方法で教材を活用してください。

• 学校がその基礎におく価値観と「民主主義のミッション」

まずこちらの章では学校が持つ「民主主義のミッション」と自己評価システムをとりあげます。まず、学校で政治を扱う方法の根拠となっている法例等の規定とガイドラインを紹介します。

• 実施前：取り組む前に考えること

その後、取組の実施前に学校が考慮すべし問題を取りあげます。学校に政党を招くための行動計画の作成方法や、生徒や職員を巻き込んで取り組む方法を紹介しします。どのような目標を定め、そのためにどのような資源があるのか、どう学校で活動が展開されたいか、どの方法を使いたいのかについて議論します。

• 実施：みんなでやってみよう！

次に、活動のヒントとなり生徒や職員と活用できる様々な方法と論点についてとりあげます。例えば、政党と一緒にどのような取組をすればいいでしょうか？政党ディベート大会はどのように開催すればいいでしょうか？進行役となることの意味とは何でしょうか？といった点を扱います。ここでは活動の参考となる本やヒントを紹介します。

• 実施後：評価とフォローアップ

評価は、計画と同じくらいに重要です。政党を学校に招いた取組を、生徒と対話をして評価とフォローアップをする様々な方法について紹介します。また、教職員が選挙結果をどう扱えばいいのかについても触れます。

学習事例

教材の終わりには、実際に学校で活動を実施した教職員、校長、生徒とのインタビューを掲載しています。インタビューは、実際にディスカッションをする時にも使えます。ここではヒントとなる教材とウェブサイトも紹介しています。

学校の基礎におく価値観と「民主主義のミッション」

学校は、民主主義と人権について教えなければなりません。それは生徒と教職員の両方が学校における取組や環境に影響を与えることができる、民主的な方法でなければなりません。

また、学校は民主主義の基礎におく価値観と人権の尊重を、あらゆる学校の活動や環境に行き渡らせることによって、民主的な市民を育てます。(Skolverket, 2012b) ここでは、学校における政治の扱いについての法令等の規定とガイドラインを紹介します。学校でどのような取組をするか検討する時には、法令等の規定とガイドラインについて共通の理解があると良いでしょう。学校がその基礎におく価値観が学校全体に浸透すれば、生徒や同僚の教職員、保護者との関わりあいには民主主義の価値を伴ったものとなるでしょう。

何について、どのように、なんのために

民主主義を教えることは、民主主義とは何かを教えることだけでなく、実践で示すことでもあります。(Skolverket, 2013b) 学校の「民主主義のミッション」は、何について (om)、どのように (genom)、何のために (för)、という言葉で説明ができます。人々は、対話などの民主的な方法によって民主主義や政党の役割を学ぶことで民主主義についての知識を身に付けます。政党とのかかわりについては、何について (om)、どのように (genom)、何のために (för)、のすべてを網羅しています。

生徒は、政党についての知識を深め、実際に政党に会うことで、社会において民主主義がどのように機能するのかを学ぶのです。例えば、生徒を計画の段階から巻き込んだり、ディベ

ートの司会を任せることで、生徒は民主的な運営方法を学びます。資料批判をし、政党がどのような討論をしているのかを分析し評価をすることで、生徒は民主主義について学び、社会に積極的にかかわるようになるでしょう。(Skolverket 2013b)



法令等の規定とガイドライン

スウェーデンの学校には民主主義の価値と知識を伝達する「ミッション（使命）」があります。学校の基礎におく価値観は学校全体の運営と組織、そして教育その他の会議や活動にも行き渡ってなければなりません。

（Skolverket, 2013b）担当教科を教えることに加えて、学校は生徒を未来を生きる積極的な市民に育てなければなりません。しかし、子どもと若者には今ここで持っている権利もあります。教育法（SFS 2010: 800）は、教育を以下のように定めます。

・ありとあらゆる出会いや交流と社会との繋がりを促進し、生徒に社会生活で積極的な参加をするための良質な基礎を提供すること（skollagen 10 kap. 2 §）

・スウェーデン社会の基盤となっている人権の尊重と、基本的な民主主義の価値を伝え、根付かせること（skollagen 1 kap. 4 §）

・教育は、基本となる民主的な価値と基本的人権を

- 人類にとっての不可侵性
- 個人の自由と統合
- あらゆる人の平等の価値
- 性の平等
- 人々の連帯

とみなし、それに沿って設計されなければならない

（skollagen 1 kap. 5 §）

生徒は民主主義社会において積極的な市民性を行使するための資質・能力²を発達させなければなりません。

実際には、市民としての資質・能力は以下の要素から成り立っています。

“1. 法が定めるところのスウェーデン社会が根ざしている基本的人権と多様性、共に有する環境のための、寛容、平等、連帯などの基本的な民主的な価値

2. 自ら積極的に社会に参加するために必要となる、政治、社会、民主主義の機能についての必要不可欠な論理的知識

3. 民主的な社会で生活と行動をするために必要となる、読み書き、基本的な数学、コミュニケーション、情報収集、批判的な思考などの実践的な技能。生徒は、不変の知識と世にあふれる情報を取捨選択し見極める方法を学ぶだけでなく、責任を取る経験、影響力を伴う参加の経験、そして民主主義の形態でのトレーニングの経験をする必要があります。（学校調査局、2012）”

考えてみよう！

市民的資質・能力とは、価値と知識と能力に基づきます。学校で政治を扱い、政党を招くことがどう生徒の市民的資質・能力の形成に貢献するか議論してみましょう。

2. 原文はkompetens（コンピテンス）と表記。OECD（経済協力開発機構）の定義によるとコンピテンスとは、単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求（課題）に対応することができる力であるとされている。

これまでの取組

「学校に政党を招く」とは、どういうこと？

学校に政党を招くことは「民主主義のミッション」を果たし、社会とのかかわりを促す方法の一つであります。

それ故に学校教育庁は、学校における政治情報の取り扱いについての補助教材³を作成しました。そこでは学校における政治についての意見陳述を特別に規制する明確な規定は存在しないと述べています。

しかし、学校関連法令によると、憲法、ヨーロッパ人権条約、学校に課された「民主主義のミッション」に定められた自由及び人権などのいくつか考慮しなければならない点があります。これらは、最高裁判所、国会オンブズマン、行政オンブズマンにより形成された方針です。学校教育庁は、政党を招き学校と政党の協働の機会を活用することを奨励しています。

参考になる読み物

学校教育庁のホームページ(skolveket.se)から、学校での政治の取り扱いにどのルールが適用されるのか確認してみましょう。

考えてみよう！

多くのコミュニティ（市町村）は、学校教育庁の「学校における政治の取り扱いについての補助教材」に基づき、学校において何が適用されるべきかを記したガイドラインを提示しています。ガイドラインは大抵の場合、コミュニティ（市町村）の児童・教育部局やそれに等しい担当課により採用されています。しかしながら、そのようなコミュニティ（市町村）のガイドラインがあったとしても、校長は査定（アセスメント）をしなければなりません。校長は既にある規定をどうするかについて決定をしなければなりません。コミュニティ（市町村）のガイドラインは、法律と規制を逸脱した決定はできません。

3. 2010年の学校選挙実施前、スウェーデン政府に代わって学校教育庁は、「学校における政治情報の取り扱いについての補助教材」を作成。その後、学校教育庁は補助教材がどのように受理され、校長によって活用されているかについてのフォローアップを実施（Uppföljning av Skolverkets stödmaterial Politisk information i skolan, Skolverket, 2012）。その後、補助教材は、フォローアップと学校の法令や規則の変更などを反映して2012年に改訂される。

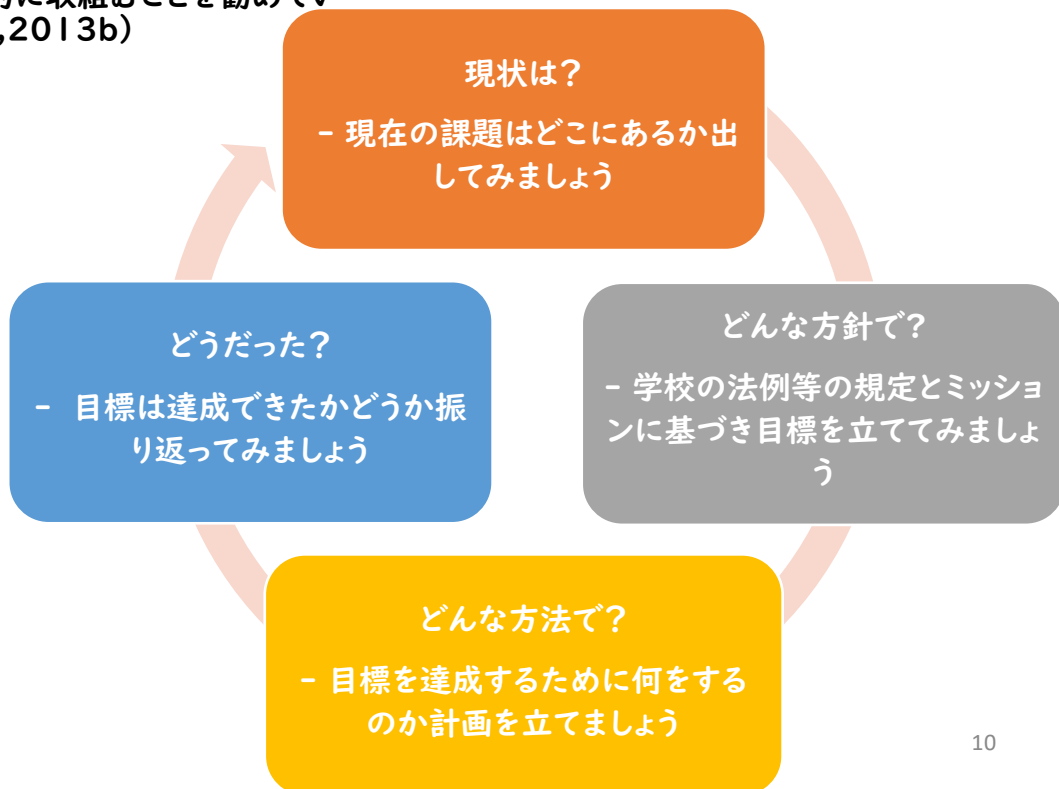
クオリティ・サイクル

体系的で良質な実践は、どうすれば維持できるでしょうか？どの取組が機能して、何を改善しなければいけないのかを可視化する、4つの質問を問いかけ合う対話を同僚と継続することが、その一つの方法です。「クオリティ・サイクル」は、学校で政治を扱う際に役に立つツールとなるでしょう。

既にある取組を改善するために活用してもいいですし、方法を体系化するために活用してもいいです。これらの質問を問い続けると、最後の質問の回答が、最初の質問である「現状は？」につながり、新たな出発点を導くことになり、取組の質が改善されていきます。学校教育庁は、これらを長期的に取組むことを勧めています。(Skolverket, 2013b)

参考になる読み物

Systematiskt kvalitetsarbete: för skolväsendet (Skolverket 2012c)



現状は？

質の高い取組のための最初の出発点としては、まずは職員と生徒でこれまでに学校でどのように政治が扱われてきたか、その経験を収集することから始めるとよいでしょう。もしかすると、以前に使ったアンケート調査や評価シートなどが現状を見極める良い議論の素材になるかもしれません。

・以前の取組では、どのくらい目標を達成することができましたか？

・目標を達成するために何をしましたか？

・記録にあるその根拠は明瞭ですか？それともさらなるフォローアップや評価が必要ですか？

学校は、「民主主義のミッション」と「基本となる価値観についての学習」⁴についても触れなければならないでしょう。ここでは知識と価値がどのようにつながっているかについての共通の見解を深めることを促します。どのような価値について扱い、それらが教育の内外にどう埋め込まれているのでしょうか。以下の質問で、どんな知識が使えるか調べてみましょう。

・何が活用できて、どう活用すればいいか知っていますか？

・誰がこれらの知識を持っていますか？

・知識をさらにつける必要がありますか？

・誰が決めごとをしますか？

・生徒は何に影響を与えることができますか？

4. 「基本となる価値観についての学習」 (värdegrundsarbete) は、スウェーデンの小・中・高校すべての段階で行われる取組である。学習指導要領 (läroplanen) の冒頭に明記されている5つの民主主義的な基礎におく価値観を意識しながら、これらの価値観について学年ごとにさまざまな形で学習する。

どんな方針で？

言い換えれば改善点を見極めるためには、これまでの取組で何をしてきたか分析しなければいけないということです。分析をする目的は、国の教育目標に沿って信憑性の高い方法で評価をして、目標達成に影響を与えた要因を明らかにします。その後、学校で政治を扱う取組の計画に対して目標を職員と生徒で作成します。目標は法令等の規定と学校に課された役割に沿っていないといけません。

・どの学習目標と、学習内容が合致するでしょうか？

・現在の教育現場以外にも、目標はあるでしょうか？

目標を達成するためにまずは、これまでに実施した取組の分析と現在学校が直面している課題への共通の理解を確認しましょう。良い目標は、具体的で評価をすることが可能なものです。ほどよい分量で、達成可能なものです。目標が多すぎて不明確なものばかりよりも、少なくとも具体的なものが多いほうがいいでしょう。目標のフォローアップを容易にするには、行動計画や何かしらの書式に落とし込まれる必要があります。

どんな方法で？

目標に基いて、職員と生徒は目標を達成するための計画を練ります。

・どの科目に、どの教職員が、どのような方法で配置されればよいですか？

・それぞれの職員や、グループ（校長、その他の職員、生徒組合、生徒会）はどのような役割を担い、責任を持たせるとよいでしょうか？

現在の状況
にもとづい
て良い目標
が立てられ
ましたか？

『政治について話そう!』には、すぐに活用できる様々な方法とヒントが多く掲載されています。どの方法を選びますか？なぜその方法を選びますか？その方法を使うための知識や経験はありますか？

どうだった？

学校で政治をあつかう活動を実施後、掲げた目標をどのようにして、どれだけ達成できたかを評価します。アンケート調査の結果や様々な方法による議論が、どのような結果になったかを評価するツールとなるでしょう。学校選挙⁵の結果や、これまでの政党を招いた経験もまた題材として適切でしょう。教職員と生徒は、目標に沿って、取組とその実施過程の経験についてとりあげます。

目標を達成
するために正
しい方法を選
びましたか？

実施してどう
でしたか？当
日はどのよう
な様子でした
か？

この最後の段階の
記録は、新しい取
組の良い基盤と
なっていますか？

5. 「学校選挙（skolval）」とは、スウェーデンのほとんどの学校で実施される未成年者のための模擬選挙。実際に使われる投票箱や投票用紙を用い、実際の選挙の実施前に投開票される。省庁からの支援を受けそれぞれの学校の生徒会が中心になって実施される。

学校は価値中立ではないーそのことの意味は？

もちろんこの見解は意見が分かれることであり、引続き議論の余地があります。しかし、学校は価値が中立となることはなく、民主主義の価値が侵害されることがあっては決してなりません。学校が価値中立ではないという事実が意味するのは、学校内で広まる価値については中立ではないということです。誰もが差別的な扱いを受けてはならず、外国人恐怖症は知識と対話によって解決されなければなりません。生徒は、様々な人々の権利に対して、ときには民主主義的ではない意見や考えを持つかもしれません。しかし、学校は核となる民主主義の価値においては中立ではなく、民主主義の価値に立脚し、民主主義の価値を伝えることを務めとします。これが意味するのは、学校の教職員としてあなたは学校の基礎におく民主的な価値観に反する価値や意見に対しては反応し、距離を置く責任があるということです。また、学校にいるすべての人が尊重されなければならないということを意味しています。

「すべての人は学校において身体的性、民族、宗教、信条、性表現、性自認、性的指向、年齢、障がいやその他の虐待的な扱いに基づいた差別を受けてはならない。そのような風潮は、積極的に対処されねばならない。外国人恐怖症や不寛容は、知識と開かれた対話、そしてたゆまぬ努力によって対処されねばならない。(Skolverket 2011)」

差別、ハラスメント、虐待行為は学校の基礎におく価値観と食い違う明らかな具体例であり、教職員はそれらに対して対処する責任があります。生徒が虐待行為にあっていたら、教頭と校長は、調査をし、対策をたてる責任があります。また、人種差別や外国人恐怖症に基づく振る舞いなど、学校の基礎におく価値観と相容れない姿勢に対しても同じことがいえます。外部の組織や政党を学校に招く時、学校の基

礎におく価値観を侵害する恐れのある意見が伝達したり、そのようなメッセージを含む教材が持ち込まれる危険性があります。しかし、人種差別的なメッセージ、非民主主義的なメッセージ、暴力的なメッセージは、ソーシャルメディアや何かしらの記号やマークという形で生徒に伝わる可能性があります。学校のあらゆる取組において、「基本となる価値観についての学習」を浸透させることが重要です。そうすれば、政党が来校して万が一、性、社会的地位、民族的帰属、身体障がい、性自認、性的指向にかんして侮辱的な発言があったとしても、心構えができていくことになるでしょう。

考えてみよう！

学校独自のあるいは学校教育庁の「児童生徒の平等な扱いについての計画」を読んでみましょう。限度を超えた脅し、中傷、憤怒は犯罪とみなされることもあります。学校に招待された生徒や大人が配布する資料があるかもしれません。外部から講師などを招いたり、生徒同士の言い争いで学校の基礎におく価値観に反する意見が出たり、生徒の気分が害された時に介入ができるようにするためには、全ての教職員と職員は、限度がどこにあるかを知って安心できるようにしないといけません。

考えてみよう！

教職員は常に最新の情報収集をすることを心がけましょう。例えば、政党のマニフェストなどに掲載されている記号やマークには、人種差別的なものだったり民主主義の原理に反するものもあります。The Expo 財団は、人種差別的な記号やマークの一覧を作成しているので参照すると良いでしょう。一覧は <https://expo.se/> から参照できます。

実施前：取り組む前に考えること

学校が持つ「民主主義のミッション」を実現する一つの方法が、政党や団体に来校してもらい、生徒と直接出会い交流をしてもらうことです。もちろん様々な方法がありますが、教師であるあなたや学校長こそが現場の状況を最も知っているはずで、ここでは、これらの取組を協力して準備する方法を提案します。例えば、政党とかかわる理由や方法、どのようにして民主主義や政治について議論をしたいかについて話すこと、などが含まれます。学校のマネジメントグループ⁶や教員、生徒、職員が政党の来校を歓迎する理由と方法について熟知していれば、取組が成功する確率は高くなるでしょう。

生徒が自分の学習環境に影響を与えることができるという事実は、義務教育、就学前教育、学童保育の学習指導要領にて強調されていることです。(Skolverket 2011) 可能であれば準備は、学校のマネジメントグループ、教職員、そして生徒と一緒に取り組むのが良いでしょう。この章では、どのように民主主義的な対話が活用できるかについて論じます。

生徒の影響力と、民主主義的な実践

学校が持つ「民主主義のミッション」とは、学校が民主主義の方法を実践することです。生徒には、学校や授業のやり方に影響を与える機会があるだけではなく、そのような権利が与えられています。日常生活に影響を与えるだけではなく、例えば生徒会や学級会などを通じて影響力を発揮する方法があります。生徒をグループ分けするときに、どのルールが当てはまるか検討する時にもこれは適用されます。(Skolverket 2013b) ですので、『政治について話そう!』では、学校で政治を扱う活動に生徒が影響を与える様々な方法を紹介します。

どう実践する？

一貫性のある「共有アプローチ」とは、生徒たちの知識の習得、促進的であり予防的な「基本となる価値観についての学習」、民主的な市民を育成するというミッションについて、学校が総合的な見解を持っているということの意味します。「共有アプローチ」は、皆が同じように考え行動することを意味しているのではなく、「民主主義のミッション」や「基本となる価値観についての学習」について全ての教職員がグループで話し合い、フォローアップができていくことを意味します。「民主主義のミッション」や「基本となる価値観についての学習」について一貫性のある「共有アプローチ」を学校が実行するために必要なことは、どのように取組を展開するのかについて話し合いを積み重ねることです。(Skolinspektionen 2012) ここでは、政党を学校に呼びたい人のために、そのような話し合いで活用できる基本情報や質問について紹介します。

ディスカッションしてみよう!

政党を学校に招待する前に、学校における「民主主義のミッション」の実践に対する総合的な見解を、どのようにしたら作ることができるか話し合ってみましょう。あらゆる学校の教育で「基本となる価値観についての学習」や、民主主義の仕組みを浸透させるために、今どのような取組をしているのか、またどのように取り組みたいのか考えてみましょう。継続して共通の話題について話し合うことは、合意形成を促し、学校と自分の個人の意見との食い違いが起きる危険を減らしてくれます。

6. 学校の主要なセクションの長のグループ。校長、教頭、arbetsgrupp（学年などの）の長が含まれる。案件によっては学校看護師や学校カウンセラーなども含まれる。

質問

- 「学校がその基礎におく価値観」に表れている価値について話し合い、それぞれ何の概念が位置付けられているのかを一緒に議論してみましょう。
- 学校における「民主主義のミッション」をどのように解釈すればいいでしょうか？
- 「民主主義のミッション」をどのように教えますか？
- 私たちのどんな教育が生徒を積極的な市民にするでしょうか？どんな方法を補強するといいいでしょうか？何を始め、何を止めればいいでしょうか？
- 学校にはどんな価値観が行き渡っているでしょうか？
- それらの価値観がどう学校の教育や活動に影響を与えているでしょうか？
- 同僚同士や教室で、異なる意見が飛び交うことが許されている対話の環境が整っているでしょうか？
- 「民主主義のミッション」を発展させるために、どのようにして経験を交換しあい、互いに学びあうといいいでしょうか？
- 生徒に知識と技術をどのように与えたらいいでしょうか？
- 「民主主義のミッション」の実践に対して、政党にどのように影響力を与え、発展させていけばいいでしょうか？
- 政党は私たちの「民主主義のミッション」の実践に対して、どう貢献をすることができるでしょうか？

行動計画を準備しよう

学校に政党を招待するための行動計画を準備しましょう。そうすると政党から何かしらの要求があった時に何と答えればいいのかを知ることができます。しかし、それだけではなく、あなた自身が学校での政治的な意見形成についてのルールに学校がどのように準拠しているのかを確認することができます。行動計画は、現在の状況を出発点とすることが重要です。

行動計画にどのように取り組むかを書き出すことで、政党がどのような条件下で招待されるかについて対応しやすくなり、また学校が既存の法律に従う可能性を高めることとなります。また情報を扱う職員や生徒、保護者に何が適用されるかを知らせることにつながります。行動計画は例えば、校則に含めてもいいでしょう。(Skolverket 2012a) どのように学校で実践するかを選択するにはあなた自身で決めることが最も良いでしょう。

行動計画を作る時には生徒と一緒に取り組むようにしましょう。なぜならこのようにすることで学校にきた政党と生徒が出会い交流する機会を、より良いものにするができるからです。後述する「[行動計画チェックリスト](#)」を参照してください。ディスカッションペーパーとして使うこともできます。

「行動計画のチェックリスト」は学校で政治を扱う取組をする前に検討するべき様々な課題が掲載されています。チェックリストは学校教育庁の『学校における政治情報 (Politisk information i skolan från Skolverket (2012b))』と、スウェーデンコミュン・ランスティング議会 (Sveriges Kommuner och Landsting) が作成した、『学校における政党一何が適用される？ (Politiska partier i skolan – vad galler?) (2010)』の一節から始まります。質問事項は、学校の政党へのかかわり方を方向づけます。またこれらの質問は、例えば既にあるガイドラインや計画または校則に含めることもできます。大事なことは、規則が政党を招待するためのどんな条件を整え、どのように取り組みたいかを協力して考えることです。

行動計画のためのチェックリスト

全体準備

□ すべての人を平等に扱う

なぜ学校に政党を招くべきなのでしょう？学校にとってなぜ、全ての政党を平等に扱うように定める規則に根ざすことが重要であるのか、考えをまとめてみましょう

□ ミッションと基礎におく価値観

それがどう学校の「民主主義のミッション」と「基本となる価値観についての学習」に対応するのでしょうか？

□ 責任

学校にいる誰が責任を持ち何をしますか？

□ 決定

どの政党を招くべきかどうかについてどう決めますか？ 全ての政党が平等に扱われることを忘れないようにしましょう

□ 招待

政党の招待はどのようにしましょう？ メール、ウェブサイト、電話？

□ 文書化

政党との連絡を担当するのは誰で、どのようにしてそれらを記録しますか？ 記録は、どの政党を招待したかについての事後の話し合いで重要になります。

□ サポートとリソース

取組を実施するための研修や何かしらのリソース（資源）が教職員に必要ですか？

□ 生徒を巻き込む

生徒をどのように巻き込み、影響力を発揮してもらうことができるでしょうか？ 生徒組合もしくは学級会を通じてでしょうか？

□ 準備

教室の生徒達は政党の来校にどのようにして備えれば良いのでしょうか？

□ 毎年開催？選挙のある年だけ開催？

この取組は継続的に行いますか？選挙のある年は何か特別なことをしますか？



展示コーナー

展示コーナーを用意するかどうか

- 政党の資料を配布したり政策について説明したりできるブース(展示コーナー)を政党に提供しますか?それとも政党が必要とした場合に提供することにしますか?

□ 展示コーナー

展示コーナーのための空間をどうするか

□ 情報掲示板

ポスターやチラシを掲示できる場所

□ 参加者の数

それぞれの政党からの参加者の人数は?

□ 職員の出席

教員や職員は、展示コーナー周辺でどのようにして待機しているのが良いでしょうか?

□ 生徒への情報提供

生徒にどのように学校の展示コーナーを準備してもらえばいいでしょうか?

ディベートと講義

□ 方策

いつ開催しますか?(日時)すべての生徒にむけて毎年開催しますか?テーマは絞りますか?

□ 方法と目的

ディベート・対話の目的は何で、どのような方法で実施しますか?

□ 責任

計画に責任を持つのは誰ですか?教職員または、生徒会の代表でしょうか?

□ 進行役

ディベート・対話の進行役は誰ですか?教職員、生徒、それとも外部の人でしょうか?

□ メディア

メディアは招待しますか?

□ 告知とフォローアップ

生徒同士でどう準備をし、フォローアップしますか?

行動計画のためのチェックリスト

その他の手配

□ 全体の構成

テーマ・デイをどのように授業や学校で政治を扱う取組に関連付けますか？

□ テーマ・デイ⁷

いつどのようなテーマ・デイを学校で開催しますか？

□ 担当

誰がテーマ・デイを担当しますか？教職員または生徒会の代表でしょうか？

□ 意思決定

招待する人や組織はどのように決めますか？

□ コミュニケーション・記録

学校の政党とのやり取りはどのように記録しますか？

□ 取組についての連絡

取組について教職員、職員、生徒、保護者との連絡はどのようにしますか？

□ ルール

政党や組織に何のルールが学校で適用されるかを、どう伝えますか？

□ 担当

誰が政党との連絡を担当しますか？

□ 積極的な情報提供

学校のウェブサイトの情報掲載しますか？政党とは積極的に連絡を取り合いますか？

□ 学校への通知

政党を学校へ招待することを、生徒と教職員にどのように知らせますか？

□ 情報はいつ公開しますか？

生徒はどのようにして、招待された政党が単数か複数であるかを知ることができますか？

□ メディア

メディアを招待しますか？

□ 説明

もし政党が来校する場合、どのような条件の下で招待をしているかと、すべての政党が平等に扱われなければならないというルールについて、合意してもらうために説明をしましょう。

7. 「テーマ・デイ」とは、ある一つのテーマに沿っていろいろな活動を行うイベントの日のこと。スウェーデンでは2019年には692のテーマ・デイがある。「国際パンケーキの日」から「国際デモクラシーの日」まで、さまざまなテーマ・デイがある。大きな組織や国などが決めた日にかかわらず、各学校などでテーマ・デイを設けることももちろんある。

安全面

□ 実施要項の見直し

実施上のルールはどうなっているでしょうか？政党が来校したときのことも付け加えるために更新する必要がありますか？

□ 安全面の責任

政党が来校したときに対応し、責任を持つのは誰ですか？（名前と連絡先）

□ 権限

もし政党の来校に関連した騒動が起きた時に、教職員と校長はどのような介入ができますか？

□ 学校は何をしますか？

もし政党が合意を破り、合意した以上の数の政治家が来校した場合や、生徒と合意に背くやりとりをした場合には、学校はどう対応しますか？

□ 取組はどのように介入されるべきですか？

どのような状況になったら政治家に学校を離れるようにお願いするのが適切で、いつどのように中止しますか？

□ 生徒へのサポート

もし学校で騒動があったり、生徒が傷つけられるようなことが起きたら、どう生徒をケアしますか？

□ 警察

警察に連絡をとるときはどのような時ですか？

□ 学校の外で

選挙小屋と訪問学習は、教育の一環となりえます。どのように実施しますか？理由は何ですか？

その他の組織

□ 行動計画

政党以外の組織や、協会・団体が学校の訪問を希望したら、どのような形態やどのような目的であれば授業への訪問、チラシの配布、ポスターの掲示、施設の貸し出しを許可しますか？

評価と参加

□ 巻き込む

活動にどのように生徒と職員を巻き込みますか？

□ 評価

活動実施後にどのように評価をしますか？どのような目的で、どのような方法で、教職員同士で、または生徒とともに評価しますか？

□ 意見の反映と場

政党の来校に生徒の意見をどのように反映させますか？どのような場で話し合いをしますか？

□ 情報提供のチャンネル

学校内ネットワーク、学級会、集い、掲示板、生徒会/生徒組合、その他の生徒の協会を活用しますか？

8.スウェーデンの総選挙時には「選挙小屋」という政党ごとのブースが商店街や駅前や広場などに設置される。候補者や支持者の演説や住民との対話をする場となっている。

政党の招待

学校がその基礎におく価値観と「民主主義のミッション」で述べられているように、学校にはどのように政党を招待したりするかなどの、政党の来校の許可を規定したルールがあります。

コミュン(市町村)の議会、または学校の理事会は、学校の「政党の取扱い」についてのガイドラインを作成していますが、それとは別で規程に沿って意思決定を下さなければならないのは、校長です。

「かつて、すべての政党に来校してもらい平等に機会を与えるという学校への要望があるために、逆にすべての政党に対して学校の扉を閉ざしてしまった学校もあった。それはあり得る一つの解決策ではあるが、学校教育庁が推奨するものではない。なぜならそのような解決策は学校に課された『民主主義のミッション』と折り合いをつけることが困難となるからである。」(Skolverket 2012b)

学校には関心があり、教育の枠組みによって政党を招待する必要性があります。しかし、政党にとっても学校へ訪問することは、新たな黨員を増やしたり、選挙前には投票を促し、政党の主張を伝えることができるという恩恵をもたらします。学校に初めて政党を招待するときには、ルールに沿った政党を招待するための明確な教育の枠組みが必要です。

その後、政党青年部の方から電話があり、次の週に展示コーナーを出させてくれないかと聞かれるかもしれません。そうしたら既にあるガイドラインに沿って政党を扱わなければなりません。

学校における政党の存在

政党が生徒を動揺させるかもしれないという不安や、政党のメッセージが生徒の気持ちを害するかもしれないという不安、あるいは秩序

を乱すかもしれないという不安によって、すべての政党に扉を閉ざしてしまった学校もありました。しかし、職員と生徒による万全の準備をすることで、そのような問題を乗り越えることができます。事前に話し合っておきたいこととしては、

- ・来校する人々に対して自分たちの校則をどのように伝える／知らせるか

- ・来校者にどのような段階になったら、学校を離れることを命じるべきか

- ・外部からの助けを必要とするときはどのようなときか

があげられます。

しかし万全の準備をしたとしても上手くいかないこともあります。長期的な視点と短期的な視点で、問題が起きた時に何をすればいいか、問題の発生を予防するためにどんな方策を持てばいいか考えてみましょう。それぞれの学校はさらに、活動が進んで行く道筋を示すような実施上のルールを用意する必要があります。ここで規則はどのように手助けとなるのでしょうか？学校における政党との関りという視点から規則を見直してみましょう。

考えてみよう！

生徒と職員に政党が来校することを知らせ、学校における政党の人々を監督するルールおよび学校のミッションと校則について、生徒と職員が確実に把握できているようにしましょう。すべての生徒に情報や意見が行き渡らないことがあることも忘れないようにしましょう。その場合には、いつ、どのようにしてそしてなぜ、学校が政党に扉を開いた(招待をした)のかを知らせるほうが良いでしょう。そうすれば、生徒も校内に設置された展示コーナーを避けることができます。

もし上手いかなかったら

万が一、学校の秩序の乱れを予感したら、警察に政党の来校が不穏な状況をもたらしたことや、学校の内外で騒動が起きそうな兆候があることを知らせましょう。そして警察とともに危険の査定（リスクアセスメント）を実施し、それに基づいてどのような備えが必要か判断しましょう。また、犯罪が起きた時には必ず警察に連絡をしましょう。

もし騒動が起きた場合には、校長と教職員はどのような権限を発動させなければならないのか知る必要があります。学校のマネジメントグループは、秩序が維持できないような意見や、犯罪や暴力やハラスメントに近い意見に対処する権利と義務の両方があります。

一方で学校は、民主主義の本質的な価値に相反する意見だからという理由だけで、意見や表現を妨げる権利を持ちません。その場合には、学校の業務上の自由権は、教育および育成の方法に限定されます。

攻撃的な発言をしてもし誰かを傷つけたり侮辱して危険にさらすような人や、民族集団、肌の色、国籍、信条にかんして気分を害する脅しや誤解を招く表現を拡散する表現などの何かしらのメッセージを発した人は、ヘイトスピーチ（hets mot folkgrupp）の罪を犯すことになります。そのような場合、犯罪の疑いが問われる可能性があります。犯罪容疑に問われるような事態が起きた時に、職員がどのように振舞うべきかを定めた規則は存在せず、個々の事例別で、警察への報告の有無は判断されることになるでしょう。地元の弁護士や警察に通報をすべきかどうかを相談してみましょう。（Skolverket 2012a）

生徒が傷つけられそうな状況になったら、学校の「児童生徒の平等な扱いについての計画」も助けになるでしょう。学校で生徒がハラスメントを受けたり傷つけられた場合の対応策は明確でしょうか？

考えてみよう！

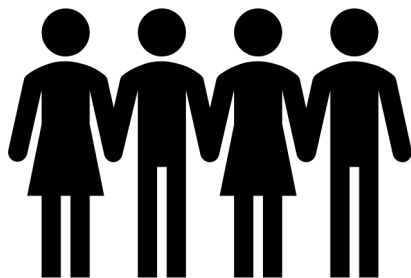
もしもに備えて、メディア対応をどうするかを考えておきましょう。政党の来校によって学校の秩序が乱れると、地元のニュースで取り上げられるかもしれません。突然メディアの注目を浴びることがあるかもしれないので、事前に学校のマネジメントグループでそのような状況を想定しておくとい良いでしょう。どのように対処し、誰が記者の質問に答えるようにしますか？

連絡と周知

職員と生徒への連絡と周知は、政党を学校へ招待するときには重要な準備のひとつになります。ここではいくつかの提案をします。

生徒と職員への周知

学校のすべての生徒と職員が、学校がどのように政党に対応して、いつどのようにして迎えるかを心得ているとよいでしょう。取組を周知させ、教職員や生徒、職員に時間を与えて準備を万全にするのです。どう周知するかは学校ごとに異なり、小規模の学校であれば集会を開けばよいですが、規模が大きくなるとそれも難しくなるでしょう。



考えてみよう！

学校で発行している新聞に取り上げてもらいましょう。政党が来校することを記事にしてくれるかも知れません。新聞には、政党来校時に適用される学校の行動計画とルールと、いつどのようにして政党が招待されるかについての情報を知らせましょう。

教育の枠組みで生徒に備えてもらう

政党が来校する前段階は、教職員として生徒に準備をさせる絶好の機会です。生徒が政党が何を支持しているかや、それぞれの政党の政治のイデオロギーを知っていれば、政党の主張に対して、批判的な質問をするいい機会になるでしょう。また生徒に内省の時間を設けて、それぞれの課題に対する自分の意見を議論してもらってもよいでしょう。政党の来校に生徒が教育の枠組みで備えるようにするには、様々な方法がありますが、例えば社会科の枠組みを活用するのもその一つでしょう。政治についてディスカッションすることや資料批判（後述）をすることは、政党ディベート大会を開催したり、政党が来校して展示コーナーを設けるために重要なことです。



考えてみよう！

この取組とディスカッションの場のリーダーであるあなたは、それぞれの取組の目的と、目的に活動がどう対応しているかについて、考えをめぐらしておくといよいでしょう。生徒に批判的な力をつけてほしいでしょうか？新しいテーマの導入に取組が位置づけられているでしょうか？取組が目的に沿わなくなる危険性はないでしょうか？



政党が来校する前の情報提供

学校で関係者すべてに情報提供をすることに加えて、来校する政党や組織に学校で何が適用されるかを記した情報を、どのように提供するか考慮しておくことが大事です。もし学校のホームページ上で情報を公開したり、外部と接触するときには、どのように情報提供すべきかを考えておきましょう。

考えてみよう！

学校のルールについて政党が理解しているかどうか確認をしましょう。招待された人は既にあるルールを尊重しなければいけませんが、学校に提示された参加の条件もまた尊重しなければなりません。例えば、展示スペースを設ける日には政党から何人が参加できるか上限を設けたり、来校者は電話番号を担当者に共有して、実施日や実施後にも連絡が取れるようにしておくといでしょう。



生徒に企画をしてもらう

政党をどのようにして迎えるか企画をするときには、あえて生徒に企画を任せてみましょう。学習指導要領によれば、生徒は自己の教育と学習環境に影響力を持つべしとされています。
・生徒会や生徒と教職員から成るワーキンググループに政党ディベート大会の企画を任せてもいいかもしれません。

考えてみよう！

政党の来校を企画し、積極的に参加してもらうことは、民主主義の原理について知り、民主的な方法で実施する能力を高め、責任をとるという目標を達成することにつながるでしょう。生徒が何を決めることができ、影響を与えることができることの限界は何で、何に責任を持つのかははっきりさせることを忘れないようにしましょう。(Skolverket 2011)



生徒の知っていることから始める

政党が来校する前に、民主主義、価値、それぞれの政党の主張について話し合うといいでしょう。生徒ひとりひとりが知っていることや経験並びに好奇心は、準備段階で活用されるべき資源です。生徒が既に知っていることや、意見があることから始めることは、興味を引き出し、参加度を高めることにつながります。

考えてみよう！

政党が来校する前から、生徒は政党についてよく知っていることを忘れないようにしましょう。中には、積極的に政治とかかわっている生徒もいます。考えが変わることもあるかもしれませんが、政党や政治について既に意見を持っている生徒は多いものです。

社会科以外でもやってみよう！

政治や政党についてディスカッションすることは、もちろん社会科の教職員として教科に組み込まれることは当然でしょう。例えば7～9年生の社会科のコース計画では政治の思想や、スウェーデンの政党を分割する政治の対立軸がどのように発展してきたかを教えることに触れています。こうすることによって、生徒にスウェーデンの政治制度や、どのような意思決定がどこでされ、個人にどのような影響があるかについて知ってもらうのです。授業では、現在の社会問題を扱うようにしましょう。

政党を招待し迎えることは、生徒の市民的資質・能力を養うために重要です。そうすることで生徒は社会がどうなっているかを知り、政党と引き合わせることは、積極的な市民性を行使する機会となります。

しかし、政党やその他の組織が充実させることができる科目は他にもあります。多くの場合、政党や政治に関連している科目は、社会科です。政治の思想が社会科のコース計画に明記されていることから、それはおかしなことではありません。しかし、その他の科目に組み込むことも可能です。例えば、社会科以外の科目では、政党が来校する日に生徒と準備をして、ディスカッションをすることができます。他の科目と協力をすれなれば、その授業は政党ディベート大会の前でも、後でもどちらでも良いでしょう。

高学年（7～9年生）の授業の例（コース計画より）

- ・生物：生物について現在の社会課題、地域～国際レベルの人間の自然への影響、狩猟と生物多様性の関連性についての世の中の議論

- ・物理：エネルギー供給と将来性と限界

- ・化学：地域～国際レベルにおける、人間のエネルギーと天然資源の利用とその利用が持続可能な発展に何をもたらすか

- ・地理：商品やサービスがどのように生産され消費されるか。移民、都市化、その原因と帰結について

- ・歴史：革命、政治的思想の出現について

- ・図工：周囲の騒音や仕事時の身体の姿勢などの職場環境、人間工学について

ディスカッションしてみよう！

- ・政党を学校に招待する際には、どのようにすればその他の教科に関連づけて取り組めるでしょうか？

- ・学校にいるすべての教職員が、政党が来校時にその活動に参加していると感じられているでしょうか？なぜそうなのでしょう？より多くの人を巻き込むにはどうしたらいいのでしょうか？

- ・コース計画に基づいて政党を社会科以外の科目に組み込むためには、他にどんな具体的な可能性があるでしょうか？

選挙がない年にも実施しましょう！

学校の「民主主義のミッション」において、基礎におく価値観を広める取組と民主主義の方法は、長期的で継続的であることが大切です。スウェーデンの総選挙は4年に一度、欧州議会選挙は5年に一度開催されますが、学校と政党とのやりとりは選挙時のみに限る必要はありません。なぜなら、そうでもないといほとんどの生徒がこれらの機会を逃すことになりかねませんし、民主主義や、価値、政治についての議論は、社会で常に議論されていることであるので、それが学校に反映されなければいけないからです。

ディスカッションしてみよう！

- ・選挙運動中、何か特別な取組をしていますか？この取組を継続するために何ができるか、また学校の継続的な取組にするために何ができるか話し合ってみましょう。

対話の導入

「基本となる価値観についての学習」や教育においては、対話が中心的な役割を果たすことになります。対話は、民主主義に必要なものですし、学校の民主主義と民主的な市民を育てるために重要な役割を果たします。学校教育庁 (Skolverket 2013b) によると、

「様々な対話の方法は、民主主義の資質・能力、様々な話題や問題について考える力を鍛えます。取組の全体に基礎におく価値観を埋め込むためには、様々な形態による対話が可視化されている必要があります。」

様々な科目を教えることとあわせて、民主的な形式による対話は生徒の

- ・批判的思考力
- ・抽象的な考え方や価値を探究する力
- ・他の人の考え方に耳を傾ける力

を養います。

探求的な対話は、「民主主義のミッション」に取り組むための方法です。同僚と「民主主義のミッション」に取り組むための方法を再検討する話し合いの場でも教室でも、同じことです。またこれは「民主主義のミッション」を、教育に統合するための方法でもあります。(Skolinspektionen 2012, Skolverket 2013b)

民主的な対話の方法

政党が来校するからといって、学校で行われる対話を実際の政治の場で行われる形式に合わせる必要はありません。学校でどのように政治について話し合うかは、教職員としてあなたが決めればよいことです。学校の教育者として、政治のディベートや討論に限らない様々なやり方を試してみましょう。

ここでは、生徒のコミュニケーション能力を鍛える様々な民主的な対話の方法と民主的な実

践について紹介します。これらは、様々な場面の教育や、政治を学校で扱う時の対話の方法として活用できます。忘れてはならないのは、ディベートや討論などの勝ち負けを決めるような方法ではないという点です。

参考になる読み物

Förskolans och skolans värdegrund
(Skolverket 2013b)

Demokratiska arbetsformer –
värdegrundsarbete i skolan (Pihlgren 2012)

熟議

熟議の場においては、自分が意見を表明して塾考するだけではなく、他の人にも意見と見解を表明して塾考する機会があります。熟議は、教える方法ではなく、参加者の主体的な取組や、「自分にも関係していると感じること」にその特徴があります。熟議の対話の場では、参加者が互いを理解し合うことに努め、議題が浮かび上がる共通の想いがある場にしましょう。

哲学的な対話

哲学的な対話というのは、誰かが正解を与えることがなく、傾聴し合い、共に考えて推論をしていくやりとりです。対話は、ある出来事や文章を共有してから行われます。生徒に何に興味を持ったか、あるいは何に違和感を感じたか考えてもらい、交互に二人で話し合ってみましょう。考えが行き詰まったら一度、対話を止めて、対話がどうだったかについての「メタ対話」をしてみましょう。何を学びましたか？何を発見しましたか？

哲学的な対話において重要な概念は、類似性、差異、定義、規則、対称性などです。これらの概念やその他の概念で対話の振り返りをしてみましょう。

ソクラテス式問答法

矛盾を含んだり、正解がない問題を扱うのに適切な方法に、ソクラテス式問答法があります。ソクラテス式問答法は、共同探求において、素直さ、謙虚さ、集中を重視します。出発点は、異なる概念と考え方の理解を促す良質な講義です。対話のリーダーとしてのあなたの役割は、生徒に質問をして考え方の「コーチ」をして、対話において責任を取ってもらうことです。

体験学習

体験学習とは、例えばロールプレイなどの実際にある問題を扱いシミュレーションをする学習方法です。ロールプレイの特徴は、参加者が役になりきって出来事を発見して経験するという点です。ロールプレイは、異なる役を演じることで事前に作られた枠組みに基づいたストーリーを描き、認識するというものです。ロールプレイの設定は、新たな視点で物事をみたり経験する機会をもたらします。普段演じない役を演じることで、これまでは見えなかった規範を可視化することになります。大抵の場合、学びとするために事前の吟味と事後の評価を必要とします。(Bromseth & Darj 2010, MUCF 2010a)

考えてみよう！

時間をかけて、共通のルールを示して対話のための条件を明らかにしましょう。対話のための共通のルールは

- ・話を互いに聴き合う
- ・答えは一つではない
- ・新たな発見があれば意見を変えてもいい
- ・互いに助け合う
- ・みんな他の人の考え方に好奇心があり、質問をしたいと思っている
- ・みんなお互いにトピックを理解したいと思っている
- ・主題から逸れないようにする
- ・「他の人がどう考えるか」「どうあるべきなのか」ではなく、私たちがどう思うかについて話し合う

教職員、対話リーダーとして

学校は、異なる意見が飛び交うように促すことで、民主主義の理念を実現すべきです。学習指導要領とは相容れない不快な意見に対応できるようにするためには、そのような意見の表明が許されていることが重要です。しかし、政治や価値についての対話は、教職員であるあなたを必要とします。あなたは教職員として、質問を投げかけて、対話を掘り下げ好奇心を刺激し、生徒の理解を深める絶好の機会を手にしています。あなたは、争点を網羅して、主張に対して反論が出るようにする責任があります。別の考え方を紹介してもいいでしょう。

政党が来校したら、賛否両論のある話題が教室内や学校全体で取り上げられることもあります。賛否両論のある話題は、生徒が実社会での議論に取り上げることで、学校環境の一部になることもあります。これらの話題は、議論がしづらく、扱いづらいものです。教室でどのようにして教職員が賛否両論のある話題を扱えば良いかを調べたLjunggrenとOstの研究によると、賛否は社会に存在しているのであり、これにより生徒の「市民」としての資質を高める特別な機会となり、教科書や伝統的な事実に基づいた教育には代替できないものとなるということです。(Skolverket 2010)

しかし社会規範や政治、道徳についての議論を教えることは矛盾もあります。LjunggrenとOstによると、教職員ができるコミュニケーションには4つのやり方があるということです。直接的に道徳・規範に影響を与える方法や価値に影響を与える方法などから、より開かれた市民や民主主義の教育を目指したものであります。教室で賛否両論のある話題を生徒が取り上げたときに、教師として、異なる方法で話題を関連づける4つの役割を生み出しました。ディベートリーダー、規範仲裁役、教育役、そして却下役です。

・ディベートリーダー

ディベートリーダーは、生徒が自分の意見を持ち、残りの人たちにコメントをしてもらうことを促します。そしたらディベートリーダーは、議論の中で出来るだけ客観的に自分の見解を述べて、生徒に違う角度からの討論をさせて意見を持つようにしてもらいます。参加者が違う感情を抱いて議論が終わることもありうるでしょう。

・規範仲裁役

規範仲裁役は、生徒の主張のどの部分に反応するかを明確にします。規範仲裁役は、社会規範や実際の法律を参照しながら、生徒が支持すべきとされている規範について伝え、それについて生徒がどのような立ち位置をとるか伝えます。

・教育役

教育役は、教室でディスカッションを誘導しようとする発言を許してはいけません。なぜなら、それは教育に介入することになるからです。教育役は、すべての生徒が議論に参加することを望むよりかは、授業後に一人一人の生徒と話し合おうとします。授業後はディスカッションは終了しているので、生徒は無理に自分の主張や立ち位置を表明する必要はありません。

・却下役

却下役は対話に割って入り、簡潔で正当な理由を告げて議論を却下します。却下役は、議論を続けることを中断し、同じ意見を出し続ける生徒を教室で拒否し、通常の授業を続けることができます。(Skolverket, 2010)

ディスカッションしてみよう！

教職員としてのあなたは、話題に賛成または反対する代わりに、生徒の話題への理解を深め、熟慮することを促します。あえて議論を中断して、生徒が出した疑問に時間をかけます。とくにデリケートで、賛否両論のある話題だったらなおさらです。時間をかけて、生徒が話すことを真剣に受け止め、例えば「どういう意味ですか？」とコメントをするだけでも対話を深めることができます。

・この4つの役割を実践し、教室であがった賛否両論のある話題に反応してみてください。この方法を試しましたか？それはなぜですか？このやり方は何を導くのでしょうか？

自分自身をみつめましょう

学校における民主主義や価値についての議論をする時に、振り返りをするのは大きな価値があります。それは、政党が来校していようがいまいか関係ありません。自分自身にとっても同じことです。心構え、価値、知識、教職員としての振る舞いは、自身がどのような問いを生み出すかに影響を与え、どのような質問に快 / 不快を覚えるかに影響を与えます。

批判的思考の方法は「規範批判的教育」であり、個人および集団の過程そのものです。規範批判的アプローチとは、自分の行動が、性、民族的帰属、性的指向、社会階層、身体障がいなどのどの「規範」によって維持されているかを振り返り、それを疑問視します。その上で、個人が定義づけられ、価値づけされ、ランク化されるときに、これらがどう付け回るのかを理解する方法のことです。これを教員、職員、生徒で実施します。(Friends 2008)

教職員としてのあなたは規範批判を通じて、自分自身を知り、規範を強めている教育現場での自分の振る舞いに気づくことができます。規範批判は、自分自身の文化的背景や経験などのアイデンティティーがいかんして教育に影響を与えているのかを自分自身に投げかけることを必要とします。

- ・自分にはどのような規範意識がありますか？
- ・その規範に対してあなたははどうしたいですか？どうしてその規範意識が身についたのでしょうか？

自分自身を見つめ直し、自分の行動や関係性を批判的に分析することは、容易ではなく心地良い過程ではありません。規範批判教育は、自分自身が置かれている状況そのものを見るので、最も核となるのは学習過程であり現在進行形の取組であると認識することで。また、例えば教育の現場において過ちに気づき、教職員として無自覚だったことに気づき、次に活かすことができる成長の機会とみなすことも重要です。この方法は、生徒のために活動を提供するのではなく、生徒と活動を共にすることで可能となります。(Bromseth & Darj 2010)。

参考になる読み物

規範批判教育の取組について 以下の文献を参考にしましょう

- Normkritisk pedagogik – Makt, lärande och strategier för förändring (規範批判教育－ノルウェー人の眼に映る権力、学び、変化の方略) (Bromseth & Darj 2010)
- Metoder för normbrytande undervisning (規範を壊す教育) – (Friends 2008)
- metodmaterialet BRYT! (Forum för levande historia & RFSL Ungdom 2011)

自分に問いかけてみよう

- ・あなたにはどんな経験がありますか？
- ・どんな民主主義の価値を持っていますか？
- ・どんな政治的な属性を持っていますか？
- ・どのような質問をすることが、自分にどのように影響を与えますか？どんな意見を持ち、特に強調したいですか？
- ・あなたが話したことや、挙げた具体例、投げかけた質問で、知らずの間に生徒を傷つけてしまったことはありますか？

同僚との話し合いにおすすめの質問

- ・どんな価値が職場にはありますか？それが民主主義の取組にどう影響を与えていますか？
- ・教職員の政党への所属が、学校での政治の取り扱いにどう影響を与えますか？
- ・学校で政治を扱う取組に、それがどう影響していますか？
- ・あなたはどんな人ですか？何があなたの規範と価値を特徴づけますか？それが学校での対話の場にどのように影響を与えるでしょうか？

あなたには義務があります。チャンスを活かしましょう！

価値と民主主義について話す方法は様々にあります。好奇心を刺激したり、対話の場作りをしたり、政党ディベート大会や討論会を開いたりなど様々にあります。

「学校で民主主義を作るために」
(Lodenius 2012) を著したAnna-Lena Lodenius は、とりわけ外国人恐怖症と人種差別についてあえて話し合うべきであると主張します。彼女は以下のようにアドバイスをしています。

・率いる

もし暴力的な意見が学校でみられるようになったら、学校で集会を開いてそのことについて話し合う場を作ってみましょう。教室、授業、学級会、職員会でも話し合ってみましょう。そうすることで、学校で発言された民主的でない意見は、無視されることがなく、真剣に受け止められるのだと示すことができます。最初に主導した人は、話す方法と内容を決めることもできます。

・質問をする

それが本当の主張で、言いたかったことでしょうか？例えばそのグループについての情報は事実で、何に基づいているのでしょうか？

・公平である

すべての人が平等に扱われ、尊重される必要があります。差別的な発言をした人であってもです。発言者について話すのではなく、発言した内容について話しましょう。

・傾聴して反対意見を取り上げましょう

傾聴する人は、反対意見にも耳を傾けるものです。

・偽りを見破りましょう

人種差別、外国人差別的なメッセージは、ある集団についての嘘を伴う場合が多いです。事実を見極め、性、社会階級、民族的帰属、身体障がい、性自認、性的指向についての偏見を強める嘘を見破りましょう。

・恐れない

備えあれば憂いなしです。話し合うことは怖いものですが、回数を重ねることで実施もしやすくなり、他の人による開催も促します。

・辛抱強くあろう

意見は話し合っても変わるとは限りません。ひとつの過程にあるとみなしましょう。

実施：みんなでやってみよう！

この章では、政党と共に行う様々な取組、例えば政党ディベート大会や政党紹介の展示コーナーについて取り上げます。政党ディベート大会の進行役にとってのヒントとなるでしょう。また、政治家の来校が良い出会いとなるよう、生徒たちを巻き込む方法も紹介します。

政党の来校前に、生徒たちに準備をしてもらうための様々な方法についても取り上げます。生徒会が講堂で開催する政党ディベート大会の直前、もしくは政党が政党紹介の展示コーナー設置のために来校する前に、批判的思考の訓練をして、生徒たちに備えてもらう方法です。これは社会の仕組みについての教育、イデオロギーについての教育、政党についての教育の一部を置き換えるものではなく、補完するものであると捉えてください。これらの方法は、社会科の先生以外も活用できます。

ここで紹介する方法、ディスカッション、作業方法は、様々な場面で活用することができます。例えば大学の進学のための準備段階で用いたり、エクササイズのお試し、もしくは取組の前後や実施中に、政治についての対話を始めるためにも使えます。これらの取組の目的は、政党の来校を増やすことでもなく、政治についての情報を無視することではなく、教室で生徒たちと政党のメッセージを取り上げ、批判的に内省を伴う対話を一緒に行うことです。

ディスカッションと取組の土台になるカテゴリ

- ・ 期待と懸念
- ・ 政治についての対話
- ・ 価値観のエクササイズ
- ・ 資料の資料批判
- ・ ディベート
- ・ 展示コーナー

期待と懸念

政党との関わり方を検討するにはまず、期待と懸念点を洗い出してみましょう。これは生徒会と協力して授業をしたり、教職員同士で行うこともできます。期待と懸念点を洗い出す話し合いは、ワークチーム、もしくは講堂での毎年の政党ディベート大会の準備に携わるプロジェクトグループで行うこともできるでしょう。どのようなグループで話し合いをするにせよ、ここでは期待と懸念を洗い出すシンプルな方法を紹介します。これはまた生徒たちを巻き込み、生徒たちが「学校での教育や内部の仕事に影響力をもつ」という学習指導要領のゴールを達成する方法でもあります。

考えてみよう！

全ての政党が平等に扱われること・参加の平等な条件に従ってもらうことを理解してもらうために、生徒たちが学校への政党の来校についてのルールを知っていることは重要です。期待や懸念が生じたとしても、それは学校が扱うルールへの理解があった上で生じるようにすべきであり、それがエクササイズを主導する者としての役割です。

やり方

・取組には何が含まれているべきかを考えましょう。そして、その決定には必ず全員が加わるようにしてください。例えば、政党が学校に来ることへの期待や懸念に対する戦略はありますか？それは政党ディベート大会や、テーマ・デイなど特別なアクティビティですか？などです。

・黒板か大きな紙に、「政党が学校に来ることへの期待や懸念」もしくは「来月講堂で催される政党ディベート大会についての期待や懸念」と書いて、説明しましょう。

・それから、緑とピンクなど、二色のふせん紙を参加者全員に配りましょう。緑のふせん紙には、一人一人が政党の来校やディベート、政党紹介の展示コーナーに対する期待、もしくは今どんな取組をしたいかを書きます。ふせん紙一枚ごとに、一つの期待です。例えば、「政党が原子力発電所についてどう考えているかもっと知りたい」「社会科の学びがもっと具体的になるといい」「楽しみたい」といった期待です。

・ピンクのふせん紙には懸念を書きます。例えば、「混乱が起きて、学校での一日が乱れるのではと恐れている」もしくは「ディベート中、政

治家は互いにまくし立てるのではないか」などです。ここでもふせん紙一枚ごとに一つの懸念です。

・グループと状況に応じて、参加者はふせん紙を二枚のフリップチャートに貼っていきます。一枚は期待、もう一枚は懸念です。もしくは、リーダーがふせん紙を集めて行きます。どのような期待と懸念があがったかを読み上げ、似たものをグルーピングすることで、各グループでどのような種類の期待と懸念が見つかったかよくわかるようにしましょう。期待に沿い、懸念が起こらないようにするために、学校側の皆さんが何をしたらいいかディスカッションしましょう。

これで政党が来校することに対して、どのような期待と望みがあるのかより明確になります。また、政党が学校に来ることによってどのような懸念があるかについても、より明確に知ることができます。それらを集めて、政治の情報を扱う学校の方針や、具体的な取組を計画するのに使いましょう。これらはまた、校則を振り返ったり、学校での児童生徒の平等な扱いを策定していく際にも重要なインプットになります。生徒であれ教職員であれ、ここで出したものがどのように学校で共有され、どうフィードバックされるか、明確に伝えましょう。



リスク分析をしよう

前頁で出された懸念は、リスク分析に活用できます。似たような懸念はグループ化して、扱う内容が少なくなるようにしましょう。その後、危険や懸念はどれだけ起こりやすいのか、あるいはもし起こった場合に学校や生徒にもたらす危険度はどれだけ大きいのかに応じて、危険や懸念を「四象限マトリクス」に入れていきましょう。

起こる確率ともたらすダメージを軸としたリスク分析

| | 起こる確率が低い | 起こる確率が高い |
|----------|----------|----------|
| ダメージが小さい | A | B |
| ダメージが大きい | C | D |

- ・ダメージが大きく、起こる確率が高いカテゴリDに入る懸念は、起こることがないよう計画を立てるべきです。
- ・また、カテゴリBとカテゴリCに入るものについては、もし起こった場合にダメージを最小限に抑えるため、何をするか考えておくべきです。
- ・カテゴリAの懸念も知っておく必要があります。このチャートは、懸念を解消するために注力すべきことを判断できるシンプルですぐにできるリスク分析の方法です。全員でここでわかったことに基づき、どんなアクションをとるか話し合しましょう。

皆さんが実施する取組や、学校への政党の来校についての作業を評価するまで、全ての出された期待と懸念を保存しておきましょう。全てが終わった後に、期待がかなったかどうか、懸念が現実になってしまったかどうか、振り返りをしましょう。

政治についての対話

政治についての対話を始めるために、ここではディスカッションの取組を3つ紹介します。



エクササイズ：政治についてブレインストーミング

政治に関心を持っている若者は、社会課題に関心を持っている若者よりも少ないそうです（Ungdomsstyrelsen 2013, ungidag.se。「政治」という言葉に対して思い浮かべるものは人によって異なるため、政治についてのブレインストーミングはディスカッションの面白い題材になります。

やり方

- ・黒板に四角を書き、四角の中に「政治」という言葉を書きましょう。生徒たちに、政治とは何か、ブレインストーミングしてもらいます。ブレインストーミングでは、何か言おうとする前にその言葉について質問や分析をしないのが基本的なルールです。
- ・もし難しい場合は、ブレインストーミングの前に二人ペアになり、政治とは何かディスカッションしても良いでしょう。
- ・参加者からあがった全ての言葉を、黒板の四角の中に書きましょう。
- ・少ししたら「政治ではないもの」を四角の外で取り上げましょう。生徒たちに、政治ではないものをブレインストーミングさせましょう。生徒たちのすべての発言を、四角の外に書きましょう。

・生徒たちのブレインストーミングが終わったら、黒板に出された言葉についてディスカッションしましょう。もしくは、生徒たちの提案を聞きながらディスカッションを行いましょう。

・黒板に出された提案に基づき、ディスカッションを行いましょう。もしより良いアイデアを見つけたら、考えを変えても良いことを伝えましょう。自身で質問を考えても良いですし、下記の質問例に従っても大丈夫です。取組の最中には、攻撃的なことを言ったり書いたりしないようにすることが重要です。

問いかけよう

- － 政治であるもの、政治ではないものについて、全員同意しますか？
- － 四角の外に書いたもので、政治になりうるものはありますか？
- － 政治であるもの、政治でないものは明白ですか？
- － 他にどのような方法で、政治であるものについて考えることができますか？
- － それは人が政治に関心をもつことに影響しますか？
- － 同じ取組を5年後にしたとしたら、どのような結果になると皆さんは思いますか？異なる結果になるでしょうか？どのような形で？

いろいろなブレインストーミング

ふせん紙を使って、生徒たちに言葉の提案を書いてもらうのも良いでしょう。ふせん紙一枚に一つの言葉を書きます。四角の中か外か、生徒たちが当てはまると思う場所にふせん紙を貼るよう伝えましょう。ディスカッションをしながら、貼る場所を移動しても大丈夫です。移動してもいいですし、四角の中と外、両方に言葉を貼ることがあっても良いでしょう。

ディスカッションしてみよう！

最新の「2015年版 全国若者調査」(若者・市民社会庁)によると、16歳から19歳までの若者の約39%が政治に関心があり、50%が社会課題、60%が海外の政治情勢に関心があるそうです。若者の政治と社会課題に対する関心は、1993年から2015年まで比較的安定しています(ungidag.se)。

・なぜ政治よりも社会課題に関心がある若者の割合が高いのか、ディスカッションしましょう。

参考になる読み物

<https://ungidag.se> では、教室で使えるもっと多くのデータにアクセスすることができます。『今日の若者(Ung Idag)』は、スウェーデンの13歳から25歳の若者の生活ぶりについての統計と情報を提供するウェブ上のモニタリングシステムです。指標を使って若者の生活状況をモニタリングする目的は、全体の傾向を掴むことと、時系列で状況がどう変化していくかを明らかにすることです。

エクササイズ： 政治家が言いたいことは？

これは批判的思考の練習のための取組ですが、これを使って、生徒たちに政治家たちと話す際の自信を与えることもできます。例えば、政党紹介の展示コーナーで話す時などです。もし政党がその場にいなかったとしても、テレビで放送される政党のディベート大会や、社会で継続的に目にするメッセージについて批判的に振り返り、質問する能力を養いたい時にも、この方法を活用できるでしょう。企業が広告を通して私たちに商品を買いたいと思わせるためのメッセージ、政党や他の団体からのメッセージなども、批判的に検証する題材となります。

やり方

生徒たちを小さなグループに分けて、それぞれのグループに政党を割り当てましょう。それぞれ担当する政党のメッセージを、来校する政治家が語っているメッセージを書き出す形で、集めてもらいましょう。もしそれが政党ディベート大会のものであれば、「政党ディベート大会でのメッセージ」として書き出します。

また、政党ディベート大会の後には、政治家を呼んでインタビューをしてもらいましょう。もし学校で政党紹介の展示コーナーが準備されているのであれば、ブースに立っている政治家にインタビューしてもらいましょう。その後、グループは各政党のメッセージを、互いに発表しあいます。

問いかけよう

- どんなメッセージですか？
- メッセージは、どのような属性の人々に向けられたものだと思いますか？（若者、高齢者、失業者、学生、ビジネスマンパーソンなど）
- メッセージを通して、聴衆にどのような感情を引き起こしたいのでしょうか？脅し、救い、動揺、幸せ、心配、もしくは怒りでしょうか？
- メッセージを通して、彼らは私たちにどう思っているのでしょうか？

- メッセージを通して、彼らは私たちに何をしてほしいのでしょうか？
- 彼らはどのような世界を目指しているのでしょうか？メッセージに込められたことは、何を意図しているのでしょうか？
- 彼らはどのような価値観を持っていますか？性善説・性悪説、人間は独立している・他人に依存しているなど、どのような見解ですか？
- メッセージの基礎にどのような事実を置いていますか？物事を捉える別の方法や、異なるメッセージにつながるような、他の事実がありますか？ディスカッションしてみよう！
- それぞれのメッセージが似ているところや違うところは何か？
- 政党が実現したいことに、似ているところがありましたか？
- 同じゴールを目指していたとしても、達成したいことについてどのように異なる表現をしていますか？例えば、失業率を減らしたい二つの政党は、実現の仕方について、それぞれどのようなメッセージを発していますか？
- 複数の政党が、異なる失業率の数値を使っているかもしれません。なぜでしょうか？
- どのメッセージが一番効果的だと思いますか？それはなぜですか？
- どのメッセージが一番魅力的で、どれが一番信頼できますか？なぜですか？

ヒント

特定の聴衆に向けたメッセージを作ってみましょう。例えば、若者、先生、コミュン（市町村）の政治家などです。大きな紙に異なるメッセージを書き、説明を加えたりして、教室や廊下に張り出しましょう。私たちがどのようにメッセージに影響を受けているのかについてディスカッションをして終わりにしましょう。私たちは生活の中でどのようなメッセージを受け取っていて、それは私たちの決断にどのように影響していますか？

エクササイズ：

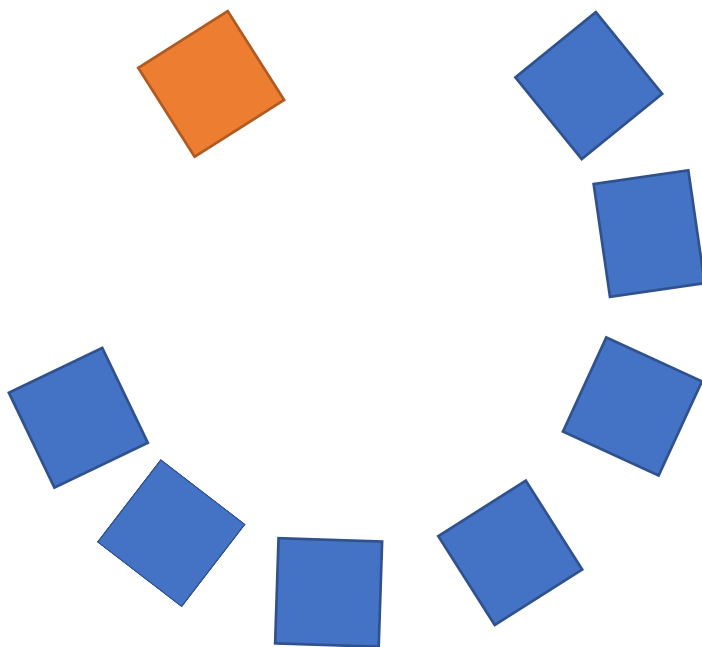
政治家と「ホット・シート」

政治家と生徒たちの交流を増やす方法に、「ホット・シート」やヒアリングがあります。テーマ・デイを持つのも良いですし、授業の中でやるのも良いでしょう。「ホット・シート」では、「ホット・シート」と呼ぶ椅子に座った一人もしくは複数の政治家に、生徒たちが矢継ぎ早に質問を投げかけます。テンポのいいヒアリングのようなものです。取り上げたい特定のテーマがあれば、来校する政治家に事前に伝えると良いでしょう。ヒアリングの前に、生徒たちに質問を準備してもらいましょう。「はい」「いいえ」で答えられる簡単な質問、より詳細な答えが必要な質問、どちらも良いでしょう。ですが一番良いのは、長くて複雑な答えを必要としない、具体的な質問です。

授業の中で、複数の政治家に質問すると面白いでしょう。そうすることで、生徒たちは、同じ質問に対する政治家たちの回答を比較することができます。もしその後に授業をするなら、例えば回答の中に政党のイデオロギーが見受けられるか、分析するのも良いでしょう。

やり方

- ・ホット・シートの日になったら、政治家を一人ずつ椅子に案内します。生徒たちは前に半月状に座ります。
- ・用意した質問用紙を、政治家にヒアリングする役割の生徒に配ります。
- ・タイムキープをする生徒を決め、答えが長すぎる時にはストップと言ってもらいます。ルールを設定してください。例えば、質問には1分以内で答えなければならない、などです。10分ほどヒアリングを行ったら、勇気ある政治家にお礼を言い、次の政治家を椅子に招きます。



価値観のエクササイズ

価値観のエクササイズは、民主主義と政治についての対話を始めるのに役立ちます。価値観のエクササイズは、対話の始まりをリードし、参加者が考え、他者の意見を聴く訓練をし、考えを表現するのを助けてくれます。これはまた、自身の視座を刺激し、他者を尊重する訓練にもなります。

価値観のエクササイズには様々な種類があります。ここでは、様々なエクササイズをどう活用できるか提案します。

考えてみよう！

価値観のエクササイズの方法は、様々なシチュエーションや、宗教、生物、技術、体育、社会、音楽など様々な教科で活用できます。

価値観のエクササイズは、テーマについて生徒たち自身で考えてほしい時や、自身がなぜそう考えるか訓練してほしい時など、あらゆる場面に適しています。エクササイズをどのように活用したいか、どのような論点がグループに最も適しているか、どのテーマを扱うかを決めるのは、先生であるあなたです。価値観のエクササイズは、様々な考えとディスカッションをもたらします（Barnombudsmannen 2009）。

www.diakonia.se も確認ください。

基本的なルールの例

- ・全員がどのような立場を取るかを決めて、自身の考えに対して責任を持ちましょう。
- ・互いの考えを尊重しましょう。例えば、人の話を聞かずにさえぎって、代わりに自身の考えを述べてはなりません。
- ・話を聴き、ディスカッションしましょう。他の参加者を理解しようとするこなしに、他者の考えを間違いだと軽視しないようにしましょう。
- ・もし他者の言っていることを理解できなかったら、質問しましょう。
- ・ディスカッションの最中であっても、いつでも考えを変え、別の立場を取り、そのことを表明しても大丈夫です。自身の考えをまとめ、他の議論が新しい考えにどのように貢献したか、振り返ることになります。
- ・議論の目的は、他者に何が正しい意見か説得することではなく、自身の立場をとり、テーマと自身の考えを振り返ることです。
- ・正しい答えはありません。
- ・価値観のエクササイズは、議論を通してテーマに関わる全てを出し尽くすものではありません。全ては言及されませんが、後からフォローすることは可能です。

価値観のエクササイズをする人が考えるべき重要なこと

・価値観のエクササイズでは、リーダーであるあなたが積極的でなければなりません。中立を保ち、エクササイズの中であがった価値を賛成したり否定してはいけません。あなたの役目は、補足となる問いや言葉を投げかけることで、全員が話しやすい環境を作ることです。

・エクササイズの前に様々な質問を想定して、どんな意見や価値があがるか、それらにどのように答えるか、考えておくとい良いでしょう。エクササイズでは、参加者はそれぞれどんな立場をとるか明確に示します。同じ意見の人がいない参加者は、一人ぼっちになってしまう可能性もあります。対話のリーダーであるあなたの役割は重要です。どちらの側が正しいというディスカッションになったり、全員が同じように考える大きなグループが教室を独占したりしないよう、気を配らなければなりません。

・基本的なルールの一つは「正しい答えはない」ことですが、どんな意見が投げかけられてもいい、ということではありません。自分がなぜそのその立場を決めたのかを説明する時間であり、教室での普段の会話と同様に誰かを傷つけるようなものは決して受け入れられません。民主的でない考えについては、エクササイズの対話を主導するあなたが対応しなければなりません。

・「4つのコーナー」を使ったエクササイズで、一人で隅に立つ生徒のリスクを減らす具体的な方法は、先生であるあなたが、次の対話までその隅に立つことです。

・対話のリーダーが価値観のエクササイズで踏まえるべき大事なことは、生徒たちの間では不平等な力関係が働いて、エクササイズに影響しているかもしれないことです。得られるものよりもリスクが大きい状況の場合、価値観のエクササイズを行うことは適切ではありません。あなたのクラスのことはあなたが一番知っているでしょうから、そこから考えましょう。

エクササイズ： 民主主義の「ホット・シート」

ホット・シートは、生徒たちにもっと元気が必要な時にすぐにできるエクササイズとして活用できます。もしくは、より長いディスカッションやテーマ活動の導入としても活用できます。

考えてみよう！

もし取りかかるのに困難を抱えている生徒がいる場合、手を頭にのせたり紙を掲げたりすることで同意するかしないかを表明する選択肢があっても良いでしょう。ですが必ず全ての生徒が、同じ方法で立場を示すようにしましょう。

やり方

・椅子を円状に並べます。参加者よりも多い数の椅子を用意するようにします。たとえ同意するの人が一人しかいなくても、場所を変更できるようにするためです。

・生徒たちは円状になって椅子に座ります。あなたは、『主張』を読みあげます。同意する人はそのまま座ったまま、同意しない人は立ち上がって席を変え、決めかねる人は座ったまま腕を交差させます。始める前に、あなたは先生として、どのような立場も取らず同じ席に座り続けることを説明しておきましょう。

・質問ごとに、なぜその答えを選んだか、数人の生徒に質問しましょう。もし答えたくなければ答えなくて良い、と説明しましょう。自身の選択をディスカッションするよう促し、飛び交う面白いコメントに反応しましょう。コメントはすぐに繰り返して強調しましょう。エクササイズでは、全員が安全と感じている必要があります。

・主張の読み上げを続けましょう。質問ごとに、振り返りと議論の時間を設けましょう。

あなたのクラスに最も適すると思う主張を選びましょう。もし思うより早く進むようであれば、常に多めに主張を用意しておきましょう。下記主張を始める前に、少し中立的な主張でウォーミングアップするのも良いでしょう。

中立的な主張の例

- 早く寝るよりも、寝坊する方が良い。
- 果物もおやつである。
- 私は冬が好きだ。
- 携帯電話がないと、私はパニックになる。

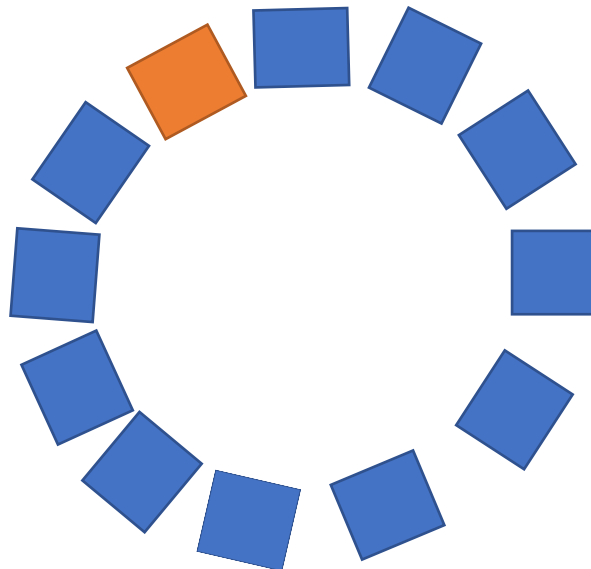
主張の例

- スウェーデンは民主的だ。
- 私たちの学校では、全員が考えていることを言える。
- 全員の考えは平等に価値がある／全員の考えが平等に尊重される（私たちの学校で／私たちの社会で／私たちの町で）。

- 私は重要な社会課題に影響を与えることができる。
- 豊かな国に住む私たちには、貧しい国に住む人々よりも環境への責任がある。
- 投票よりも、デモをする方が効果的だ。
- 投票することは重要なことだ。
- 多数派が常に正しい。

考えてみよう！

自分自身で主張を作ってみましょう！ただし、否定的な主張、つまり理解が難しくて立場をとるのが難しい言葉は避けましょう。また、ディスカッションを通して、異なるグループの人々を問題視したり指さしたりするリスクのある質問は、作らないよう注意しましょう。



エクササイズ：

政治の温度計

「政治の温度計」は、相対する二つの答えを対極に位置づけ、目盛りの横に立つことで、自分の立ち位置を示すものです。

やり方

・部屋を自由に動くことができるようにしてください。床にテープを貼って、部屋の二つの壁をつなぐ線を引き、中心のどこかにゼロの印をつけます。部屋のそれぞれの壁は、プラスとマイナスを表します。両サイドの間は目盛りで段階付けされ、生徒たちはこれに沿って回答を選ぶことができます。

・始める前に、あなたは先生として中立を保ち、エクササイズの中で自分自身の価値を示すことはないと説明しましょう。もしエクササイズが終わった後、生徒にどこに立つかと質問されたら、可能な限り正直に答え、生徒たちと同様に問いを真剣に捉えていることを示してください。

・あなたは、主張とどのように目盛りが段階付けされているかを読みあげます。主張ごとに、なぜその答えを選んだか、数人の生徒に質問しましょう。もし答えたくなければ答えなくて良い、と説明しましょう。自分の選択をディスカッションするよう促し、飛び交う面白いコメントに反応しましょう。コメントはすぐに繰り返して強調しましょう。エクササイズでは、全員が安全と感じている必要があります。

・主張の読み上げを続けましょう。質問ごとに、振り返りとディスカッションの時間を設けましょう。

あなたのクラスに最も適すると思う主張を選びましょう。もし思うより早く進むようであれば、

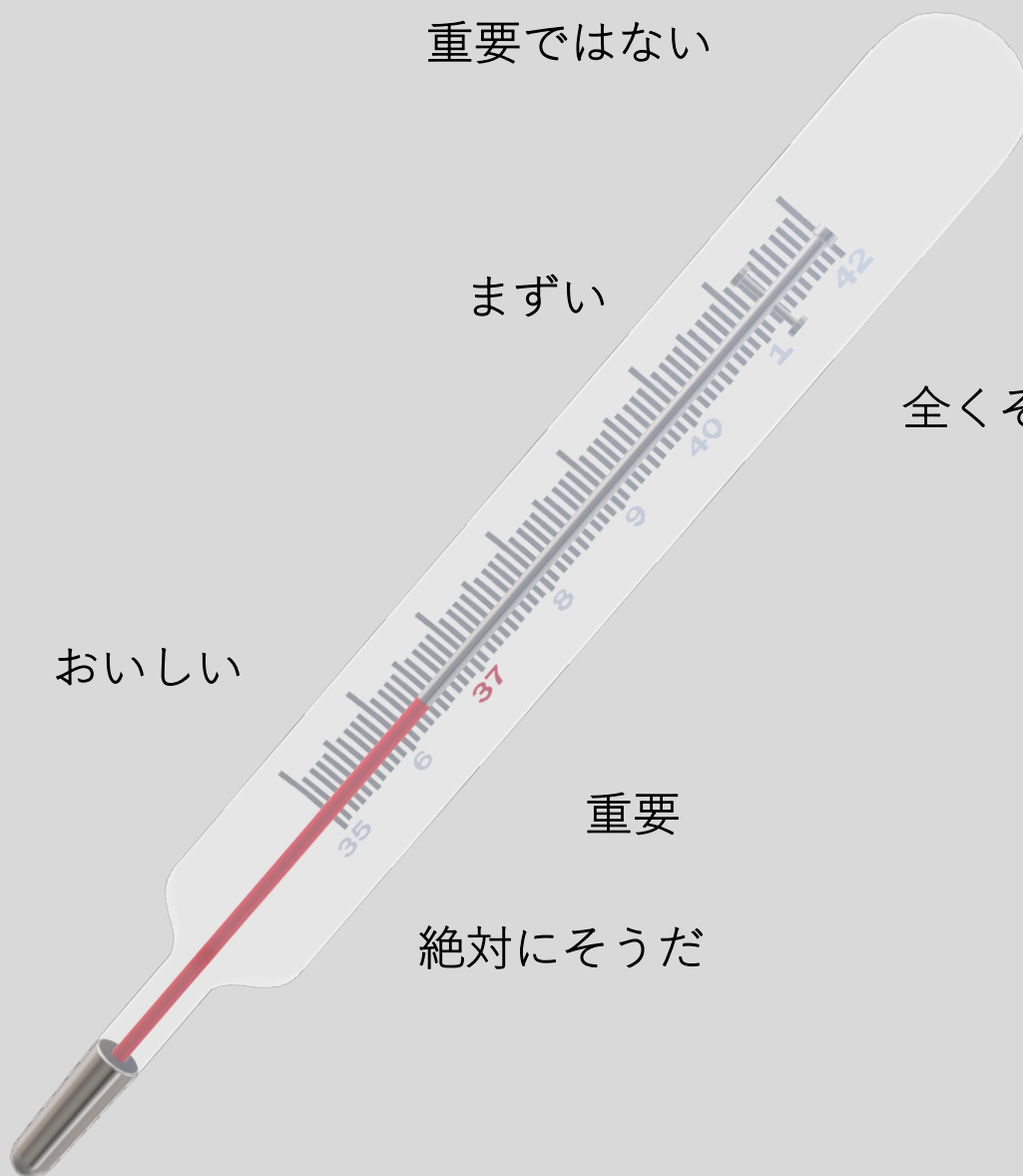
常に多めに主張を用意しておきましょう。下記の主張を始める前に、少し中立的な主張でウォーミングアップをするのも良いでしょう。

中立的な主張の例

| | | |
|---------|--------|----------|
| 果物はおやつだ | 絶対にそうだ | 全くそうではない |
| 寝坊は | 重要だ | 重要ではない |
| アイスは | 美味しい | まずい |

主張の例

| | | |
|-----------------------------|---------|------------|
| 若者は政治家に影響を与えられる | 全くその通りだ | 全くその通りではない |
| コミュニン（市町村）議会の政治家はあなたを代表している | 全くその通りだ | 全くその通りではない |
| 政治は | 重要だ | 重要ではない |
| 私はインターネットの情報を信じる | 全くその通りだ | 全くその通りではない |



資料批判

意見形成は、民主主義の中心にあるものです。意見形成とは、人々やグループが課題についてどう考えるか、どう振るまうかについて影響を与えることです。意見を形成し、人々の意見に影響を与えることに、団体や政治家、政党は多大なエネルギーを割いています。政党にとってのゴールは、究極的には人々がその政党を支持し、選挙で投票することです。意見形成 — 私たちが住む世界についての持続的なディスカッションによる多様な意見交流 — もまた、民主主義社会の中心にあるものです。

学校で民主主義について学ぶことは、民主的な対話に参加するツールを得ることであり、ディスカッションやディベートを分析し、積極的に参加するためのツールを得ることです。そこでは批判的思考力が重要であり、資料批判は、情報を評価するためのツールとなります。

生徒たちが事実を批判的に吟味する力を身につけることは、学校の目標の一つです。批判的思考力を養い、資料批判の質問を取り上げることが、宗教・表現・歴史・社会・国語・生物・物理・化学といった学校のコース計画に含まれています。ですので、政党の来校前と来校中に批判的思考を訓練するのは、良い機会となるでしょう。

ディスカッションしてみよう！

生徒たちが日常生活において批判的に考える訓練となるディスカッションは、様々な教科で行うことができます。例えば、資料批判がコース計画の一部になっている「表現」の授業。様々な表現を見て、ディスカッションしてみましょう。例えばニュースの表現、メッセージを広めたい団体や政党に使われている表現、広告やマーケティングで使われている表現などがあるでしょう。

— どのような方法で表現を変えることができますか？

— 表現が編集されているかどうか、どのように編集されているかわかりますか？

— ファッションの写真はなぜ編集され、レタッチされているのでしょうか？

— 変えていいことと、変えてはいけないことは何ですか？なぜでしょうか？

資料批判とは？

「資料批判 (Källkritik)」(Thurén 2013) の著者で、ジャーナリズムと哲学の教授、歴史の有資格者 Torsten Thurén によると、私たちの知識は全て、知識の資料の上に築かれています。資料批判とは、簡単に言うと、真実もしくは真実らしきものを見つけるために、資料を解釈し、資料がどれだけ信頼できるものか評価するための方法論のことを言います。

評価する資料は、本やインターネットのサイト、仕様や規定や新聞といった書面かもしれません。インタビューの回答や記者会見での陳述、公的なスピーチといった口述のもの、指紋や歴史的な物や建物かもしれません。また、原本の資料である一次資料と、他の資料を参照する二次資料を区別することも重要です。基本的なルールは、一次資料は二次資料よりも信頼が置けるということです。

どの資料を利用するかは、あなたが求めているものによります。主観的であることを認識しているならば、主観的な資料を使うことは間違いはありません。もし各政党が特定の問いについてどのように考えているかを知りたい場合には、政党のホームページは良い資料となるでしょう。しかし、特定のテーマについて事実を知りたい場合には、より客観的な資料にあたる必要があります。

資料批判の4つの原則

1. 信憑性 – 資料が信頼できるものか確認しましょう。
2. 時間との相関関係 – 資料がいつ作られたのか確認しましょう。一般的に、リアルタイム（出来事が起こった頃に近い時期）の資料は、出来事からずっと後に作られた資料よりも信頼できます。例えば私たちの記憶は、時間が経つにつれて変化していきます。
3. 独立性 – 資料が他の資料に依存していないか確認しましょう。例えば、噂に影響されていないでしょうか。
4. 不正行為 – 資料が個人的、経済的、政治的利害関係により歪められていないか確認しましょう。（Thurén 2013）



政治について 話そう！

エクササイズ：

資料としての政党

政党は主観的で偏った資料ではありますが、政党が論点に対してどのような立場をとっているか、政策で何を実現したいか知るのには最も良い資料です。ここで取り上げるべき重要なこと、教室でディスカッションできることは、一つの現実について語るのにも様々な方法があること、そしてそれが政党の言説の理解につながる、といった点でしょう。政党の情報は、より中立的な資料から見つけられる情報をより重視しましょう。

政党の資料を評価する際には、自身が共感することと、真実とを分けて考えましょう。あなたが共感する政党は、実際、彼らの関心事やあなた自身の考えに反する事実を伝えずにいる可能性もあります。

政党の主張は、偏りのない事実に見えつつも、提示される情報は政党に合う世界観を示す資料が選ばれているため、現実を誤って認識させるような「半真実」、誇張である可能性があります。誤解を招くことはないけれども、物事の一面しか伝えないものもあるでしょう。例えば、現実を一つの視点からのみ伝える資料もあります。

偏りが疑われる資料の情報を判断する一つの方法は、反対の資料と比べることです。もし資料が政党ならば、反対のことを考えている政党と比べましょう。例えば、政府と野党が同意する情報であれば、確実ではありませんがおそらく真実でしょう。偏った資料からのデータの信憑性を判断するためには、少なくとも一つの対立する情報か、もしくは偏っていない資料をあたるようにしましょう。

問いかけよう

- ・各政党は、例えば若者の失業や子どもの貧困について、どの統計を取り上げているでしょうか？
- ・与党と野党を比べてみましょう。現実を説明するために、同じ数字を使っているでしょうか？
- ・もし違う場合、どのように違いますか？なぜ違うと思いますか？あなたが中立だと思ふ資料の統計を探してみましょう。そこでは何と言っていますか？

チェックリスト

資料を評価するためのチェックリスト

以下のチェックリストは、生徒たちが資料の信憑性を評価するために使える質問例です。

資料は主観的だったり偏ったりしていますか？

- 資料の伝える情報には、評価が含まれていますか？
- 資料は誰かの関心事を代表していますか？もしそうならば、誰のものですか？
- 他の資料から対立する情報は出ていますか？対立する情報は信憑性があるものですか？
- 他の独立した資料によって確認された情報を得ることはできますか？
- 示されている事実は、どのように選ばれていますか？
- 事実の選択は歪んでいますか？他の情報を加えたら、現実のイメージは変わりますか？
- 関連のある情報が伏せられていないでしょうか？どのような視点で事実の選択がされていますか？

資料の背後にいるのは誰ですか？

- ☐ 政府機関
- ☐ 団体
- ☐ 会社
- ☐ 個人
- ☐ そのテーマを支配している人
- ☐ あなたの信頼する人

その資料はなぜ作られたのでしょうか？

- ☐ 情報を提示するため
- ☐ 事実を提示するため
- ☐ 何かについてあなたを説得するため
- ☐ 意見に影響を与えるため
- ☐ あなたに商品やサービスを売るため
- ☐ あなたを楽しませるため

その資料はいつ作られたのでしょうか？

- 出来事が起こった頃に近い時期に作られた資料ほど、より信憑性があると考えられます。その資料は何かメッセージを提示していますか？
- 刊行にあたっての目的はありますか？

☐ はい ☐ いいえ

- 情報は信頼できるものですか？

☐ はい ☐ いいえ

- あなたが既に知っていることと合致していますか？

☐ はい ☐ いいえ

- 隠されたメッセージはありますか？

☐ はい ☐ いいえ

- 事実は確認できますか？

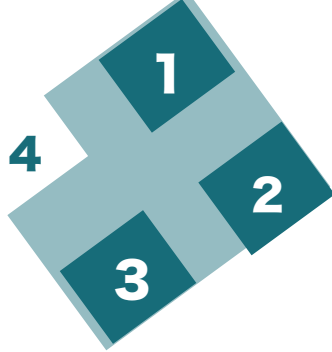
☐ はい ☐ いいえ

- 欠けているデータはありますか？

☐ はい ☐ いいえ

参考になる読み物

このチェックリストは「Internetstiftelsen i Sverige (IIS) Källkritik på internet」(Alexandersson 2016)と学校教育庁の「Fakta om källkritik – en handledning i allmän källkritik och källkritik på internet」(www.skolverket.se)に基づいています。



エクササイズ： 資料批判の「4つのコーナー」

価値観のエクササイズは、様々な資料批判の方法を生徒たちとディスカッションするのに良い方法です。異なる資料への信頼を反映するために、「4つのコーナー」のやり方をどう活用したら良いか提案します。このエクササイズは、「Expert på medier – digital kompetens i Lgr 11」(Mediekompass & Statens medieråd 2014) から引用しました。

やり方

生徒たちに以下の質問と、3つの決まった回答、1つのオープンアンサー（独自の回答）を投げかけてみましょう。それぞれの回答は、部屋の隅（コーナー）と対応しています。生徒たちは、正しい回答だと思う四隅に立つことで質問に回答します。生徒たちが四隅に立ったら、それぞれの隅へ行き、生徒たちに質問を投げかけてみましょう。

問いかけよう

・スウェーデンの首相が、オーストラリア大使から賄賂を受け取ったというニュースが広まりました。

– あなたはどの資料を一番信じますか？

コーナー 1: あなたの校長が、それは真実だと言っている。

コーナー 2: 地方紙が、それは真実だと言っている。

コーナー 3: あなたの複数の友達が、Facebookでそれは真実だと言っている。

コーナー 4: 自由回答

問いかけよう

・あなたの先生はこう言います。「フィンランドとノルウェーでは児童の権利条約が法律になっているが、スウェーデンでは違う」それは間違っていて、おかしいように聞こえます。

– 先生が真実を話しているかどうか、どのように確かめますか？

コーナー 1: Googleで検索する。

コーナー 2: 法律の条文を読む。

コーナー 3: 児童の権利を扱っているユニセフやセーブ・ザ・チルドレンに電話して質問する。

コーナー 4: 資料について質問する。

あなたの先生はどこから情報を得たのでしょうか？（先生も人間ですので、誤った情報を伝えてしまうことがあるでしょう。今回は先生が全く正しいのですが、資料について尋ねることは決して間違いではありません!）

問いかけよう

– 誰もいないコーナーはありますか？なぜでしょう？

– 生徒たちはなぜ一部の資料を信頼し、他の資料は信頼しないのでしょうか？

– 私たちはなぜ様々な資料を選ぶのでしょうか？それは何につながっていますか？

– 様々な資料のそれぞれの強みと弱みは何でしょうか？



エクササイズ：

政党の情報資料を批評してみよう

やり方

もし選挙の時期であれば、政党がメッセージを伝えるために掲示している選挙ポスターや情報パンフレットを吟味してみましょう。様々な政党の資料をできる限り集めて、そこで提示されている事実を批評しましょう。例えば、生徒たちに政党が提示している事実を確認させ、SCB（スウェーデンの統計機関）、Arbetsförmedlingen（スウェーデンの雇用サービス）、Naturvårdsverket（スウェーデンの環境保護団体）や他の機関・団体の情報と比較させてみましょう。

問いかけよう

- 情報資料で伝えられていることは真実ですか？真実かどうか、どのように知ることができますか？
- どの事実が強調されていますか？触れていないことは何ですか？
- 現実を捉える他の方法はどのようなものですか？
- 他の事実に基づき、全く異なるメッセージと解釈することはできますか？
- ポスターや政党の情報をみた人はどう考えると思いますか？私たちは情報からどんな影響を受けますか？
- もし政党が「半真実」や嘘、誇張を広めたら、どんな結果になりますか？

– 選挙ポスターや政党の資料は、誇張や「半真実」を含んでいます。

– それは問題ありませんか？言及されていることは真実だと断言できますか？なぜですか？

ヒント

政党のウェブサイト、FacebookやTwitter、その他の言説での最新情報から見つけられる表現や事実も批評してみましょう。

インターネットの資料批判

インターネットは、情報を探し、関係をつなぎ、ディスカッションし、批評するのに貴重です。インターネット上の情報量は膨大で、一つのテーマについて調べるだけでも膨大な情報量が得られます。資料を扱う際に気に留めるべき重要なインターネット上の問題は、判断が必要な資料も多くあるということです。情報の多くは偏っていて、自身の世界観を裏付けるサイトを見つけるのは簡単です。誰でもインターネット上に情報を発行することができます。また、あまり裏付けられていない事実や誤った理解を広める資料も沢山あるのです。(Alexandersson 2016)

インターネット上では情報はすぐに広まり、人気のビデオや更新された近況は、沢山の人のシェアされます。うわさや間違った情報も、twitterやFacebook、ブログですぐに広まります。動画や写真の内容が誤っていたり、実際は商業的な動画だったりすることもあります。誤解を招く情報を意識して広めているサイトすらあります。

インターネットの利点は、多くの情報量が、情報を体系化し、見つけた資料を批評するのを容易にすることです。また、ソーシャルメディアは、自分が見識のない物事について、遠方にいる専門家や出来事を中心にいる人物につながることを容易にします。例えば、twitterはアラブの春で大いに活用され、そこで起こったことについての情報を活動家たちが得られるようにしました。しかし同時に、インターネットは、調査するのが難しい膨大な情報を作り出します。

やり方

生徒たちに、「失業の原因」、「ジェンダーの平等」、「(移民や難民の)統合政策」について調べさせ、見つけたことについて書き出させましょう。

問いかけよう

– その情報はどんな種類のサイトから得られたものですか？ニュース記事、ブログ、政治的なホームページ、掲示板でしょうか？

– それらは部分的だったり、偏っていたりしますか？

– 彼らが見つけた情報は偏っていますか？どのように偏っていますか？

– 対立する情報はありましたか？

考えてみよう！

インターネットやソーシャルメディア上の情報は、政治家のウェブサイトをはるかに超えるものだということを気に留めておきましょう。特定の政治的な考えを広めたいと思っている団体、労働組合、思想家、新聞、ブログ、会社は数多くあります。批判的に考える練習をしましょう。

– 普通と考えられていることは何ですか？

– 問題は誰で、何であるとされていますか？

– 誰に向けて書かれていますか？

– 何が当然のこと、もしくは悪だとされていますか？

エクササイズ:

ソーシャルメディアとインターネット掲示板の資料批判

Facebookやtwitterのようなソーシャルメディアは、ユーザー自身によって作られたコンテンツを元にして成り立っています。政治家や様々な会社・団体、その他のオピニオンリーダーも、自身のFacebookページやtwitterアカウント上で活動しています。

ユーザーとしては、評価の必要な数多くの情報にアクセスすることになります。Facebookもしくはtwitterで見つける記事やビデオをシェアしているのは、自分の知っている信頼する人のことが多く、批判的に見るのを忘れてしまうリスクがあります。(Alexanderson 2012)

ソーシャルメディアでは、コンテンツが何度もシェアされたり、「いいね」を沢山もらっていたりすることにもなります。これはコンテンツを批判的に見ることをより困難にします。

やり方

インターネット上の資料批判について小さなグループで対話しましょう。大きなグループで輪になって、各グループでディスカッションしたことを共有しましょう。生徒たちとディスカッションしましょう!

参考になる読み物

MIK för mig - digital utbildning - Barn, unga och medier (私のためのMIK - 新しいメディア環境についての教育パッケージ)

今日、私たちは情報を探し、自身の意見を表明する素晴らしい機会を得ています。ですが同時に、情報のチャンネルを選び間違える機会も増えています。どの情報を得るかが、あなたの世界の見方に影響します。得る情報の違いは、私たちがどんな人かということに大きく依存します。それは例えば、年齢、性別、関心、教

育、さらにはどんなネットワークを持っているかなどです。

スウェーデン・メディア審議会による教育パッケージ「MIK för mig」は、先生や司書、高校の生徒たち向けに作られています。その目的は、生徒たちや若者に近いところで活動する大人たちを教育することです。短いアニメ動画で構成されるデジタル教材は、新しいメディア環境が私たちの関係性、学校や民主主義にどう影響しているか、価値観のエクササイズや振り返りの質問を提供しています。MIKは、こちらから確認できます。statensmedierad.se

問いかけよう

- 彼らは誰、そして何を信頼していますか?
- インターネット上の情報を見るとき、彼らはどれくらい批判的に考えていますか?
- ブログで読んだことを信頼していますか?それはなぜですか?
- 広告であるものや、何が真実で何が真実でないかを見つけることは容易ですか?
- Facebookのステータスを更新したり、他の人の動画や写真をシェアするのはどんな時だと考えていますか?
- インターネット上ではどんな種類の政治的な情報が広まっていますか?
- 様々な関係者は、彼らの現実のイメージを広めるために、どのようにインターネットを活用していますか?
- 彼ら自身はソーシャルメディアで何をシェアしていますか?
- 彼らは見つけた情報が正しいかどうか、どのように確認していますか?



ディベート

学校に政党を呼ぶ一般的な方法は、政党の代表が様々な問題について議論するディベートを開くことです。ここでは、ディベートをどのように設定するか、そして進行役や対話をリードする人が考えておくことを提示します。

典型的なディベート

様々な政党の代表間での典型的なディベートは、講堂や教室、その他の場所のステージに招かれた代表たちが並び、一定の時間に様々な問題についてディベートするパネルディスカッションを意味します。ディベートは進行役がリードします。典型的なディベートは、進行役から登壇者に投げかけられる短い質問、はい・いいえで答えられる質問から始まる人が多いでしょう。その後、進行役の指示により、登壇者が数々の決まったテーマについて議論していきます。

考えてみよう！

ディベートの目的と、ディベートから何かを得るのは生徒たちであることを

考えておきましょう。ディベートは面白くなるでしょうか？生徒たちの政治と民主主義への好奇心を刺激するでしょうか？ディベートを特別な方法でフォローしますか？ディベートの目的や、ディベートを通して彼らが得たいもの、彼らにとって大事なこと、といったディスカッションに生徒たちも巻き込みますか？ディベートが核心に迫るよう努めてみてください。

双方向型のディベートにする様々な方法

聴衆がディベートに参加できると、ディベートはより面白くなります。ディベートを聞いている生徒たちを巻き込む方法は沢山ありますが、ここではいくつかそのヒントを紹介します（Lacina 2009）。

- ディベートの最初に、生徒たちにテーマと論点を提示させましょう。様々な生徒たちが、短い口頭のプレゼンテーションや写真、短い動画を通してディベートのテーマを提示し、それによってディベートの議題を設定し、彼らにとってテーマがどのように重要かを述べる形で行うことができます。

- 事前に生徒たちに質問を用意させましょう。例えば、それぞれの生徒が紙に質問を書き、箱に入れます。その紙をディベートの中で進行役が引き、質問を投げかけるというやり方もあるでしょう。このやり方であれば、ディベート中に口頭で質問する勇気がない生徒でも意見を届けることができます。

- ディベートの最中に、聴衆から質問やコメントを引き出しましょう。ディベートの真ん中に聴衆から質問を受けるメリットは、聴衆と生徒がディベートを続けられて、登壇者が生徒の質問に答えてディスカッションする時間を得られることです。ディベートの最後に質問を受けるリスクは、質問に答える時間がほとんどなくなってしまうことです。

- ディベートが行われている間、生徒たちに事前に共有しておいた番号へSMS（携帯電話のテキストメッセージ）で質問を送ってもらいます。SMSを受け取った担当者は、質問を整理して進行役に伝えて、進行役が読み上げ、登壇者に答えてもらいます。

・最後に、生徒か生徒会の代表に、ディベートの要約をしてもらいましょう。

・Twitterを使いましょう。ディベート用のハッシュタグを作ること、生徒たちはTwitterでディベートについてディスカッションすることができます。会場のスクリーンにTwitterのハッシュタグのタイムラインを写す、もしくは責任者がタイムラインを確認することで、生徒たちはディベートへ質問したりコメントしたりすることができます。登壇者への質問がよりしやすくなるでしょう。インターネット上でのマナーについて明確なガイドラインを持つようにしましょう。ディベートや学校での個人攻撃はダメなこと、それはソーシャルメディアでも同様だということです。Twitterのタイムラインは、ディスカッションの土台として、ディベートを追っていくのに役立つでしょう。

ディベートの参加者が難しい言葉を使ったり、遮ったりしていなかったか、聴衆に判断してもらいましょう。例えば、生徒たちが野次る、もしくは、登壇者が理解できない言葉を使った時や誰かを攻撃したり傷つけたりしてルールを侵した時に指摘する、などがあるでしょう。その抗議を取り上げ、生徒が何を意味したのか質問するのは、進行役としてのあなたの役割です。例えば、難しい言葉が使われたら、発言した人にその言葉が何を意味するか聞きましょう。生徒たちが野次や抗議の機会を乱用しないよう、気をつけましょう。事前に、この方法をどのように使うのか、また全員がそれは聴衆の責任であることを、生徒たちと議論しましょう。(Lacinai 2009)

進行役の役割

進行役の主な役割は、ディベートやパネルディスカッション、ヒアリングが、客観的でフォーカスされており、聴衆にとって包括的な内容となるようにすることです。ディベートや対話が良い内容になるのは重要ですが、そのためには良い進行役もしくは対話のリーダーと

なるための準備が必要です。進行役はまた、ディベートが面白く、同時に論点の様々な側面が挙げられ、全ての登壇者が対話に参加し、設定されたルールに従うよう、気を配らなくてはなりません。

進行役は、聴衆が回答を欲しいと思っている質問を設定することで、聴衆が興味を持っているディベートを理解し、よく聴けるよう手助けをします。聴衆である生徒たちからあがった質問を繰り返しましょう。あなたと登壇者が質問を正しく理解し、全ての生徒たちが質問を聞こえるよう気を配りましょう。もし登壇者があなたや聴衆からの質問に答えていなければ、諦めずに再度質問し、もし何かが不明確であれば明確に答えてもらうよう質問しましょう！もし聴衆の生徒たちから質問を受けたら、政治家がそれにきちんと答えるよう気を配りましょう。質問した人に満足する答えを得られたか確認し、もし満足していなければ、登壇者に再度答えてもらうようにしましょう。誰も質問する勇気のない、馬鹿げた質問や素朴な質問を投げかけてみましょう。

参考になる読み物

進行役の方は、Antoni Lacinaiによる書籍「Moderera mera」(Lacinai 2009)を読んでみてください。

進行役の準備

学校でのディベートを準備する先生や生徒のグループが、ディベートに適用されるルールを確認することは重要です。例えば校則から始めてみましょう。

ルールの例

私たちの学校でのディベートでは、

- ・テーマと人を区別します。他者の議論に対して答え、討論するのであり、個人的な攻撃はしません。
- ・お互いを尊重し、性差別や人種差別、その他の批判は受け付けません。
- ・時間を守ります。
- ・難しい言葉は避ける、もしくは説明します。

ディベートのルールが守られ、登壇者が個人攻撃などをしていないか注意を払うのは進行役の責任です。学校の全員がディベート中に適用されると同意したルールがあれば、進行役が例えばこう言うのは簡単でしょう。「ルールが破られたので、中断します。このディベートで個人攻撃は許されません。論点に戻ってください。」

ホームページで政党の綱領を確認し、参加する政党について学びましょう。選挙の時期であれば、選挙の綱領を読みましょう。ディベートで扱うと決めたテーマについて、それぞれの政党がどんな立場をとっているか確認しましょう。進行役として、各政党が論点に対してどんな立場をとっているか確認しておけば、どの点について同じ考えや違う考えを持っているかわかり、ディベートで異なる意見をあぶり出すのが容易になります。

ディベートの参加者について学んでおきましょう。ディベートの前に彼らに電話をする、もしくは話しましょう。進行役として各参加者の雰囲気を知っておくことは良いことです。もし特に喋りすぎるような人がいれば、それを中断する必要があるかもしれません。参加者の経験の長さについて知っておくのは良いことです。政党に入ったばかりでこれが初めてのディベートなのか、以前に何度もディベートに参加しているのか、といったことです。

進行役として、経験に関わらずディベートの参加者全員が喋れるよう、間に入っていったバランスを

とる必要があるかもしれません。あなたの役割を確認し、自身の意見を吟味しましょう。

- ・あなたの意見や考え方は、特定の意見を他の意見より強調したり、除外したりはしませんか？
- ・それを避けるために何ができますか？

ディベートの計画を立てましょう。ディベートをどう始めるか、それぞれのテーマにどれだけの時間を割くか、ディベートをどう終えるか計画しましょう。ディベートのスクリプトを書きましょう。スクリプトに余白を空けておき、登壇者から挙げられた重要なポイントを記録したり、ディベートの最中に思い浮かんだ、後から投げかけるべき質問を書き出しておきましょう。

ヒント

コミュン(市町村)議会の政治家とのディベートに使う基本的な台本の例：

台本

13:00 導入

登壇者を歓迎し、ディベートのルールを説明する。例えば、お互いを尊重する、個人攻撃はしない、長く話さない、難しい言葉を使わない、など。

13:03 登壇者のプレゼンテーション

登壇者が自身を紹介し、質問に答える。どうしたら私たちのコミュンは若者にとって最高のコミュンになれるか？(7人、1分ずつ)

13:10 テーマ1 - コミュンの文化

13:20 テーマ2 - 学校

13:30 テーマ3 - 労働市場

13:40 聴衆からの質問

13:50 終了、感謝を伝えて別れる

考えてみよう！

時間を管理しましょう！また、登壇者が時間を守るようにしましょう。もし各登壇者が質問への回答に2分だけ使えると決めたら、その時間を守るようにしましょう。一つの方法は、30秒前になったら黄色い紙を、終わりの時間に赤い紙を示すことです。

正しい質問をするには

進行役として、どのような質問を設定するか考えておくと良いでしょう。オープン・クエスチョン、クローズド・クエスチョンがあります。

オープン・クエスチョン

誰が、何を、どうやって、いつ、なぜ。登壇者の答えが広がるよう促します。

クローズド・クエスチョン

はい、いいえ、もしくはわからないの回答を得られます。はっきりとした答えを得られない時、登壇者がどのような立場をとっているか知るために投げかけるととても良いでしょう。クローズド・クエスチョンの例：

－ 税金を上げたいですか？

－ コミュニティ（市町村）は新しいプールを建設しますか？

クローズド・クエスチョンに「どのように？」と質問を続ける

「どのように」は、最も良い質問で、政党が何かをどのように成し遂げようと考えているかの進展を要求します。ほとんどの人が失業率を下げたいと考えていますが、どうやって？そこはとても関心が深く、政党が支持を得るかどうかに影響します。答えを得るためにクローズド・クエスチョンで始め、それからオープン・クエスチョンで、「どのように？」と続けましょう。

するどい質問をする

政治家は、質問に答える代わりに、自身の都合の良いように回答することがよくあります。彼らがやりたいこと、あなたの回答とは関係ないことを話す形で、質問に答えるかもしれません。彼らが元のテーマに戻るよう促してみてください。

「そうですね。でも今私は、皆さんがスポーツ施設の設置に備えているかどうかについて知り

たいと思っているのですが？」

質問に自身の価値観を加えないようにする

聞きたいことを評価せず、質問を作りましょう。また、意見となる質問は避けましょう。質問した相手が、質問に答える代わりに、あなたの意見に反対し、その点に集中してしまうかもしれないからです。追って質問できるよう、登壇者が何を話しているかしっかりと耳を傾けましょう。後で自分が何を言うかを考える代わりに、登壇者が話している内容を聴きましょう。

考えてみよう！

取り上げる予定の質問について、登壇者が準備できているようにしましょう。ディベートの参加者がそれぞれの質問について良い答えを持っていた方が、ディベートはずっと面白くなります。

ディベートを終える

ディベートを要約しましょう。進行役か、ディベートが始まる前に要約の役目をあてられた生徒が行います。登壇者と、とりわけ耳を傾け（願わくば）積極的に質問を投げかけて参加した生徒たちに御礼を言いましょう。

考えてみよう！

（政治家の発言は）どんな言い回し（レトリック）をしていましたか？生徒たちにディベートを分析させましょう。

分析しよう

討論や言い回し(レトリック)について学ぶには、正しくディベートを分析することが有効です。例えば、ディベートの前にグループに分かれ、討論の様々な方法を確認することで備えます。ディベートの最中には、どのような種類の討論が使われているか(例えば感情的な討論、もしくは論理的な討論)と、誰がそれを使っているかを書き出してみます。

問いかけよう

- ・ 個人攻撃や抑圧的な表現はありますか？
- ・ 議論の様々な方法を、誰が使っていますか？
- ・ それぞれの登壇者はどのくらいの時間喋っていますか？
- ・ 女性の政党代表は男性の代表に比べて、もしくは若い代表は経験ある代表に比べて、どのくらい話す時間を持っていますか？
- ・ もしくは、コミュニケーション(市町村)議会には上記の代表全員が議席を持っていますか？

これは後に、ディベートの異なる方法やグループで誰が多く場を持っているかディスカッションするのに、面白い土台になるでしょう。ディベートの一部を録画しておき、後で教室で分析したりディスカッションしたりするための土台に使っても良いでしょう。面白いパターンが見つかるかもしれません。

政党を紹介する展示コーナーの手配

展示コーナーの手配は、学校へ外部の当事者を招く古典的な方法ですが、展示会などのような他のイベントでも一般的です。多くの学校では、政党の展示コーナーを手配したことがあります。要するに、展示コーナーとは、テーブルを設置し所定の時間と場所で政党の資料を手渡せるよう、学校に政党が招かれることです。政党の代表が何人かブースに立って、関心のある人からの質問に答えたり、資料を配ったり、メンバーを募集したりします。

考えてみよう！

要件を設定するのは、みなさん学校側です。

政党紹介の展示コーナーを活用する

展示コーナーと、そこで情報を共有するために政党が学校へ送る代表者たちは、教室で様々な方法で扱うことのできる貴重な資源となります。生徒たちに、情報を得るために政治家たちと喋れるよう、課題をを与えましょう。

社会科では、政党について数々の問いへの答えや、実際の問題で政党がどの立場をとっているかについて知ることができるでしょう。メディア学を専攻する生徒は、政党の代表者にインタビューをして、短い記事を書くこともできます。

自然科学では、環境政策について政党に質問することができます。スウェーデン語の授業では、情報資料を集めて、政治的に説得力の高い文章がどのように書かれているか分析することができるでしょう。

展示コーナーの活用方法に限界はなく、どの教科でも活用できるでしょう。もし生徒たちが何か情報を探しているならば、政党と接触することも政党の代表と話すためにブースへ行くことも容易であり、またとても良い出会いにもなるでしょう。

ヒント

この資料の最後、学びの例の箇所に収録している、トゥーレソー高校とヴェルムドー高校の事例も確認してみましょう。学校でどのように展示コーナーを活用したいか、ディスカッションして考えてみましょう。



実施後：評価とフォローアップ

ここまで、政治に関する情報について学校の中でどう取り組みればよいか話し合い、また、学校に訪れた政党の人達と協力して、何らかの取組を実施することがきっとできたでしょう。（そうであってほしいと願っています。）では今度は、皆さんが実施したことについて評価を行い、またフォローアップすることに少し時間を割いてみましょう。そうすることで、うまく行ったこと、そしてもっと改善したいことに気づける可能性があります。

もし学校でディベートや何かしらの取組を行なったのであれば、それらについてもディスカッションをし、フォローアップすると良いでしょう。生徒から出てきた問いを授業の中で取り上げることもできるでしょう。

ここでは、評価の方法を複数紹介します。政党の人たちと共に実施した取組を、対話を通じてフォローアップする方法、そして、学校選挙の結果を、民主主義についてディスカッションするときどう活用できるかその方法を紹介します。またここでは、「若者の意見の政治への反映と選挙への参加」についてのディスカッションの練習方法を取り上げます。

評価—それは計画と同じように重要なこと

評価を行うにはたくさんのやり方があります。大切なことは評価してみること、するとそれが何かにつながっていきます。つまり、評価する中で出てきたことから、私たちはもっと学ぶことができ、より改善された取組を次にできるようになるのです。評価を行う目的はさまざまです。共同体意識や当事者意識を作り出すために、参加者一人ひとりの考えが取り上げられて、皆が「自分は参加している」と実感するために、次の取組をどう改善したり変えたりできるのか情報を得ることもまたひとつの目的です。

評価はまた、個人としての学びの一部という側面もあります。ある評価を通じて、一つの取組、一つのプロジェクト、または一つのディベートを行なった後にその人が持っている思いや考えを表明できることで、一人ひとりが、そこで扱われていることがらと、また自分自身

について、さらに多く学ぶことになるでしょう。

エクササイズ：ふせん紙で評価

評価することの目的は、どうすれば物事をより良くできるかを知ったり、あるいはどうすれば別なやり方で行えるのかを知ることにあるので評価する時に使われる手法も、評価する中で出てきたことがらを記録できるものであると良いです。そうすれば、学校で政治の学習に取り組む際に、学習をよりよくするための資料として使うことができます。

教室の中の議論を手早く評価するために、また、一つのイベントを行なっている最中に短めの評価を行うために、さらにはテーマ・デイの休憩時間に、この素早くできるふせん紙評価は、教師である皆さんには良い方法です。それによって、グループの中の状態を把握することができます。

やり方

- ・休憩を取る前に、すべての参加者、例えばすべての生徒にふせん紙を配る。

- ・定められた問いの答えをふせん紙に書かせ、その後教師が回収する。

問いかけよう

- 今、どんな気持ちですか。
- もっと話したいとは何ですか？
- 一番良かったこと／一番良くなかったことは何ですか？なぜそう思いますか？



この方法で、教師であるあなたは、今どんなふうに事が運んでいるのか、その活動を引き続き行うにあたり何が変更できるか、だいたいの様子を素早く知ることができる可能性があります。休憩の後にはぜひフィードバックを行いましょう。休憩前に行った評価にもとづいて、今やっている活動を変更するのかどうか、変更するならどう変更するのか伝えて下さい。例えばこう言っても良いでしょう、「皆さんの中で、たくさんの方がフェミニズムについて引き続き議論したいと思っています。ですから、次の取組に移る前に、まずそれをやっいてこうと考えています。」特定の生徒の名前を明らかにしないよう注意してください。

エクササイズ：活動の評価

ここで紹介するのは簡便な評価の方法です。これは、皆さんがやったことの何がうまくいって、何がうまくいかなかったかを確認するためのものです。この方法は実施したディベートや、「テーマ・デイ」などの限定された活動を評価するのに適しています。評価を始める前に皆さんが何を評価するのかをはっきりさせておいて下さい。評価するのは先週の火曜日に行なったディベートですか？

やり方

- ・このエクササイズは小グループでも、グループ全体でも、または個人でも実施することができます。ひとつ提案するなら、まず小さめのグループで実施し、その後にグループ全体でまとめをするというやり方です。

- ・それぞれのグループにフリップボード用の紙など大きな紙を一枚ずつ配り、その紙を縦三つに区切ります。区切られたそれぞれの部分にはそれぞれ信号機の色（青、黄、赤）のイラストを描くこともできます。一番左側の部分には「やめる」、真ん中の区切りには「続ける」、そして右側の区切りには「始める」と書いてもらいます。

- ・グループの中でディスカッションし、うまくいかなかったと思うこと（つまり、やめること）、うまくいったことでそのまま継続したいこと、そして最後に、生徒たちが「これが足りない」「これを始めたい」と思っていることを書きます。

- ・各グループが書いたことをそれぞれ読み上げ、グループ全体でまとめます。そうすることでグループの全員が、評価の中で上がってきた視点の全体像を知ることができます。

エクササイズ：フォローアップ

生徒たちといろいろなテーマについて話し合うときには、政党が来校したことに触れてみてください。例

えば社会科、スウェーデン語、心理学、哲学などの科目で扱うことが可能です。手法としての対話は、政党の来訪を評価するの際にも用いることができますし、学校での取組（例えば政党ディベート大会）で取り上げられた論点を引き続き授業で扱うときにも用いることができます。

準備段階で、何について話し合いをするのか生徒たち自身に決めさせ、ディベートの中で新しく出てきた論点とテーマがあるかどうか注意深く聞くように指導して下さい。スウェーデン語の先生なら、例えばそれぞれの政党がどんな言い回し（レトリック）を使っているか注意深く聞くようにしてもらい、また哲学であれば、各政党が人間の自由意志についてどう語っているかよく気をつけて聞くように伝えることもできます。一連の問いかけは「はい」「いいえ」で答えることができないもの、むしろ決まった答えのない問題点や論点であることが望ましいです。

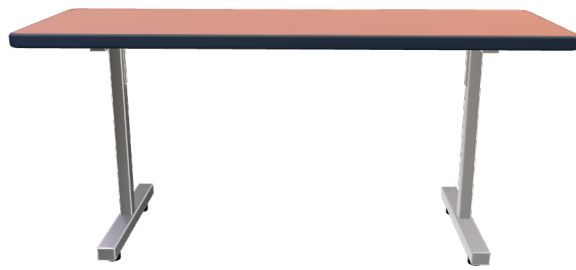
やり方

生徒たちにさらに続けて話し合いたいことを書き出してもらい、後の授業に持ってきてもらいましょう。対話を始める際に、すべての生徒が、自分がメモ書きした論点を黒板に書き、その後その中から何について話を継続したいか生徒たちが一緒に選びます。生徒たちは、なぜ自分が書いた事柄に関心があるのか短く話しても良いでしょう。他の生徒たちの中にも全く同様あるいは似たような論点や疑問を持っているかもしれません。そういったものは一つの問いとしてまとめて下さい（もし、生徒たちがそれで良いと言え）。

グループの中で何を継続してディスカッションするか決めるのに、「印をつける手法」を使っても良いでしょう。すべての生徒は3つの小さなシール、磁石、またはホワイトボードペンを受け取り、それで印をつけます。継続して議論したい項目に印をつけますが、3つの印をどうつけるかは生徒が決められることとします。例えば3つすべてを一つの項目につけても良いし、別な項目につけても良い、というようにします。もっとも多くの印がついた項目が、生徒たちが話し合いたいこととして選んだものとなります。

考えてみよう！

注意してほしいのは、この話し合いは皆さんが一つの共同の結論にいたるようになるものではないということです。そうではなく、これは生徒たちが様々な問いをどう考え取り扱うのかを訓練するための方法なのです。おそらくこの話し合いは、答えを出すことよりもむしろ、好奇心をかき立てることでしょう。



選挙結果についてディスカッション

もしも皆さんの学校で学校選挙を実施したのであれば、その選挙結果についてディスカッションをするのは大変良いことです。そうすれば、どのように民主主義が機能するか、そして、生徒たちが自分の取る立場をはっきりさせる時に重要であった様々な分野の話し合いにつながるでしょう。また、民主主義における若者の役割についての話し合いにもつながるでしょう。学校選挙の結果がこの国の政治に大きく影響しないとしても、真剣に扱うことが大切です。生徒たちは投票するにあたり時間を割き、それについて良く取り組んで来たのです。

考えてみよう！

秘密投票とはすなわち、生徒であっても学校選挙についての議論の中で、どの政党に投票したか公表する必要はないということを意味します。生徒たちが一緒に、自分の学校の学校選挙の結果と全国の結果の両方を見ていくのが良いでしょう。

問いかけよう

—どれだけの人数が投票をしましたか、そして何が生徒の学校選挙での投票に繋がったのでしょうか？

—自分がどの政党に投票するか決めるのは易しかったでしょうか、それとも難しかったでしょうか？また、それはなぜですか？

—学校選挙で投票をすることは大切なことだと感じていますか？そう感じる／感じないのはなぜですか？

—学校選挙に参加することを通じて生徒たちは何を学びましたか？

—生徒たちがどの政党に投票するかを決める時、どのような論点が必要でしたか？またなぜその論点が決め手となりましたか？

—若者がどの論点を重要だと考えている、と生徒たちは思っていますか？

—生徒たち自身はどんな論点が重要だと考えていますか？またそれはなぜですか？

皆さんのコミュニティ（市町村）やランスタング（県）、国で同様の選挙が行われたのであれば、その実際の選挙結果がどうであったか生徒たちに提示してください。

問いかけよう

—学校選挙の結果と実際の選挙結果の間にある相違点と一致点は何ですか？

—どのような要因でその違いが生まれると考えられますか？

—学校選挙が本物の選挙でないということに何か意味はありますか？本物の選挙だったら違う政党に投票しましたか？

—国政選挙の結果と皆さんのコミュニティ（市町村）の選挙結果にはどのような違いがありますか？それはなぜですか？

—大人たちがどの政党に投票するかを決める時、どのような点が重要だと考えていると生徒たちは思っていますか？大人たちが重要だと考えているその点は生徒たちが重要だと考えている点と異なりますか？

—投票することは大切なことですか？

—投票する以外に（社会に）影響を与える他の方法があるでしょうか？

若者の意見の政治への反映と選挙への参加

国の若者政策の全体的な目標：

「すべての若者がより良い生活上の条件を持つこと、自分の人生を形づくる権限を持つこと、そして社会の発展に影響を及ぼすこと」

若者政策についての政府見解^(skr 2013/14:191)ではまた、若者は他の人と同じように、民主主義の過程の中で積極的に参加する可能性を持つべきであり、個人的な生活上の領域から社会全般までその状況に影響を与えるべきだと明確に述べています。一つの起点は、若者の積極的な参加が人権という点から見て重要なだけでなく、若者の経験と考え方は政策決定において価値があり有用なものであるということです。^(skr 2013/14:191)

下記の情報を、社会全般における若者の意見の政治への反映と選挙への参加についてのディスカッションの際に使ってください。下記の情報は『今日の若者 (Und idag) – 若者についての統計』のウェブサイトから取り出したものです (www.ungidag.se)。

参考になる読み物

若者・市民社会庁 (MUCF) はこれまで若者の生活状況についていくつものレポートを発行しています。これらのレポートでは、若者の生活状況が、若者政策の6つの分野 (労働、住居、経済・社会的脆弱性、身体・精神的健康、影響力と代表性、文化と余暇、教育) に応じて調査されています。『今日の若者 (Ung Idag)』のウェブサイト (ungidag.se) 以外にも、『Fokus 10 – 若者の影響力についての分析 (Ungdomsstyrelsen 2010b)』というレポートが、若者の影響力についてのさらに深い分析と議論を行っており、またそのダイジェスト版も発行されています。社会への関心とかかわりについての若者の意識と価値観についての知見は『Unga med attityd 2013 (Ungdomsstyrelsen 2013)』というレポートの中に書かれています。

若者の選挙の投票率

・2014年の国政選挙における18-24歳の若者の投票率は82%でした。これはランスティング (県) の選挙の投票率 (77%) よりやや高いもので

した。

・すべての投票者の全体の投票率は2014年の国政選挙で86%でした。それに対してランスティング (県) の選挙の投票率とコミュン (市町村) の選挙の投票率はそれぞれ82%と83%でした。全体的に見て、選挙での若年有権者の投票率はやや低い割合となっています。

・2014年の欧州議会選挙で、18-24歳は46%が投票しました。これは、38%の投票率であった2009年よりも8%高く、また26%の投票率であった2004年よりも20%高いものでした。2014年の欧州議会選挙におけるすべての全世代の選挙投票率は51%でした。

・すべての選挙に際して、女子の投票した割合が男子の割合を上回りました。

・すべての選挙に際して、スウェーデンにバックグラウンドがある若者⁹の投票した割合が、海外にバックグラウンドがある若者の割合を上回りました。

問いかけよう

—投票することは重要ですか？

—初めて選挙に参加する年齢の人々の間で投票率がより低いのはなぜでしょうか？

—国政選挙よりも欧州議会で投票する人の割合が低いのはなぜでしょうか？

—投票率は、若者が政治にどう関心を持っているかどうかを映し出しているのでしょうか？

—なぜ女子が男子より高い割合で投票をするのでしょうか？

—国際的に見ると、スウェーデンは高い投票率となっています。これは何によるものと考えられるのでしょうか？

—投票することは影響力を持つための唯一の方法でしょうか。影響を与えるための他の方法にはどんなものがあるのでしょうか？

9. 「スウェーデンにバックグラウンドのある若者」とはスウェーデン国内で生まれた若者を指し、「海外のバックグラウンドのある若者」とは、両親が外国生まれの若者を指す。

いまだに若い政治家は少ない

・2014年の国政選挙で選ばれた10人のうち約9人が30-64歳の年齢層でした。

・2014年の国政選挙で若い成人(25-29歳)が選ばれた割合は8%強で、これは18-24歳で選ばれた割合に比べて約4倍ほどの差でした。

・2014年のランスティング(県)選挙で選ばれた4分の3強の割合が30-64歳の年齢層でした。

・2014年のランスティング(県)選挙で選ばれた若い成人(25-29歳)の割合は5%強でした。

・2014年のランスティング(県)議会議員で選ばれた若者(18-24歳)の割合は3%強でした。これは2002年の選挙と比較して微増(1%)となりました。

・2014年市町村議会選挙において選ばれた10人のうち7人強が30-64歳の年齢層でした。

・2014年市町村議会選挙において、25-29歳の若者成人は18-24歳と比較してわずかに高い割合で当選しました(4%強)。

・市町村議会選挙において18-24歳の若者が選ばれた割合は増加し、2002年の選挙で2%でしたが2014年には4%弱となりました。

参考になる読み物

政治への参加から遠ざかる若者についてディスカッションするときの資料として、統計中央局(SCB)がまとめたレポート『Folkvaldas villkor i kommunfullmäktige – en studie om representativitet, avhopp och synen på uppdraget (市町村議会における当選者の条件—任務における代表性、離脱、そして考え方の考察)』(Statistiska centralbyrån 2013)を読んで下さい。

ランスティング(県)およびコミューン(市町村)議会で選ばれた若い議員のうちたくさんの人が、その政治的責務を任期が終わる前に辞職しています。

・スウェーデンのコミューン(市町村)で働く18-

24歳の若手議員のうち、2010-2014年の任期内に議員を辞職した人の割合は47%でした。これはその前の任期の時(41%)と比較するとやや高めの割合ですが、2002-2006年の任期の時とは同程度の大きな割合です。年齢層18-19歳と20-24歳を比べてみると、18-19歳の最年少世代の議員を辞めた割合の方がやや高く、その差は5.4%でした。

・ここ最近の2期の議員任期(2006-2010年と2010-2014年)において、ランスティング(県)議会の、18-24歳の若手議員のうち30%が任期途中で辞めています。18-19歳と20-24歳を比較してみると、18-19歳の議員が辞めた割合(62.5%)が、20-24歳(26.2%)より高くなっています。

問いかけよう

—国の議会、市町村議会、そしてランスティング(県)議会において、若者が代表としてそこにいるのは重要なことですか?なぜ重要/重要でないのですか?

—18歳から24歳の人が選挙で選ばれる割合がとて少ないことは何を意味するのでしょうか?それは若者の政治に対する関心を反映しているのか、それともその他に原因があるのでしょうか?議会での議決内容にそれはどのように影響するのでしょうか?

—若者が政治に関心をもつために何か障害となるものがあるのでしょうか?例えばどのような障害があるのでしょうか?

—さまざまな年齢層の生活状況はどう違うでしょうか?そしてその違いが選挙の時に立候補するのに影響を及ぼすことがあるのでしょうか?

—なぜ若者議員の多くが、任期が終わる前に政治的責務から逃れ、辞めていくのでしょうか?⁶⁰

政党に入っている若者は少ないが多くの若者が社会に関心を寄せている

・2014-2015年では、16-24歳の若者の5.6%が少なくとも一つの政党に入っていました。

・16-24歳の若い女性のうち、ある政党の黨員であると答えた人の割合は2014-2015年では6.2%でした。

・16-24歳の若い男性のうち、ある政党の黨員であると答えた人の割合は2014-2015年では5.1%でした。

・2014-2015年では、政党の黨員に占める16-24歳の割合は、スウェーデンにバックグラウンドのある人で6.3%、海外にバックグラウンドのある人が3.5%でした。

・2014-2015年の間、政党の黨員に占める16-19歳の割合は4.9%、20-24歳では6.4%でした。

・16-25歳の若者で、2015年に特定の社会問題に取り組む組織や団体に属していた人の割合は8%でした。この割合は、2009年に5%であったのと比較すると増加しています。20-25歳では10%で、16-19歳の4%と比較すると高い割合となっています。

問いかけよう

—政党の青年部のメンバーになりたい人は、どうしてそう思うのでしょうか？

—政党の青年部のメンバーが比較的になく、しかし、多くの若者が社会問題と政治に関心があるのはなぜでしょうか？

—ひとつの政党の中に、様々な年齢層とバックグラウンドを持つ代表する人たちがいることは重要ですか？

—生徒たちは政治に関わろうとじっくり考えたり、またはすでに政治に関わる経験をしているのでしょうか？

社会へのかかわりと政治への関心

・社会問題に関心がある16-25歳の若者の割合は2015年には59%でした。この関心度合いは、2009年には50%に減少したのを除いて、2004年から2015年の間、比較的安定しています。さらに性別に分けてみても、社会問題に関心がある割合は2004年から2015年の間では比較的安定しています。

・2015年、若者の中でも年齢層の高い20-25歳は、それより若い16-19歳の50%に比べて社会問題により高い関心をもっていました(63%)

・16-25歳で政治に関心のある若者の割合は2015年では43%でした。これは2012年よりも増加しています。一方でこの関心度合いは2004年から2012年までの間では比較的安定しており、35%から39%となっています。男性(47%)の方が女性(40%)よりも高い割合で政治に関心を持っています。

・2015年の調査では、政治に関心のある男性(16-25歳)が47%で女性が40%でした。政治に関心のある女性の割合は2013年の31%に比べて増加しています。

・16-25歳の若者の間で、自分の市町村に関わる問題において影響を与えることに関心があると回答した割合は、2015年には46%でした。これは2012年には40%であったのに比べて増加していることを示します。しかしながら、2004年(49%)以来の全体的な傾向として見ると減少しています。

・16-25歳の若者の間で、自分の市町村の意思決定者に自分の考えを示せると感じている人は2015年には17%でした。この割合は2012年と同じですが、9%であった2004年と比較すると高くなっています。

・2015年の調査においては、意思決定者に考えを示せると感じている人の割合は16-19歳では21%で、20-25歳の15%に比べて高くなっています。

問いかけよう

—政治に関心があると答えた人の割合は社会問題に関心があると答えた人の割合よりも低いものでした。これにはどんな理由があるのでしょうか。社会問題に関わるのと政治に関わるのとでは違いがあるのでしょうか。

—政治に関わろうとすれば、どんな形があるのでしょうか。

—社会に影響を及ぼしたいと思う時、どのような形で取り組んでいくことができるのでしょうか。

—多くの若者が自分たちの考えを市町村の意思決定者に持っていき、影響力を及ぼしたいと思っていますが、限られた割合の人たちしか、その可能性があることを体験していません。これにはどんな理由があるのでしょうか。影響力と参加によって市町村の業務や取組を発展させていく方法はあるのでしょうか。

参考になる読み物

多くのコミュニティ（市町村）が、そこに住む若者の考えについて調査を実施しています。もしかしたら、皆さんの住むコミュニティで行われているかもしれません。そうであれば、議論の際に資料として使うことができます。

「市民提案」を書こう

多くのコミュニティ（市町村）において、市民が何かを変えるべきだと考えたなら、その提案を直接政治家に提出することができます。これは「市民提案」というものです。その市町村に住民登録されている、または登録されているすべての人は、年齢や市民権にかかわらず、市民提案を書いて提出することができます。つまりそれは、たとえ子どもであっても、外国の背景を持ち投票権がない人であっても「市民提案」を提出することができるということです。

「市民提案」を書くことは民主主義の練習として利用することができます。そうすることで、市民はコミュニティの取組に対して直接、改善

のための提案をすることが可能であることを理解するのです。

「市民提案」を取り入れている市町村

2018年の段階で、スウェーデンにある計290のコミュニティ（市町村）のうち195が「市民提案」の制度を取り入れています。皆さんのコミュニティがその中の一つであるかどうかは、コミュニティのウェブサイトを確認することができます。そこを見てみれば、コミュニティが「市民提案」にしっかりと取り組んでいくために、そこにどのような内容が盛り込まれていないといけないかを知ることができます。

よく考え、議論し、そして書く

「市民提案」では、コミュニティにおいて、あなたを変えたいことについての具体的な提案をします。その提案は、コミュニティの事業に関わることで、コミュニティが責任を持っていることすべてを対象とすることができます。それは例えば、学校のことで、文化・余暇政策、高齢者・障がい者のケア事業、公園、スポーツ施設、歩道・自転車道などのことを扱うことができます。

その後、コミュニティにおいて変えたいと思うことがあるかどうか、一緒によく熟慮しディスカッションをして下さい。たとえば、コミュニティの若者にとっては何が重要な問題でしょうか。

・学校環境をより良くしたり、クラス数を減らしたりすることはできるのでしょうか？

・余暇政策は不足しているのでしょうか？

・コミュニティは、合法的グラフィティの描かれた壁、自由に運動ができる場所、安心できる環境のためにもっと街灯を増やすこと、過疎化が進む町に住む若者にとってより便利な交通網など、さらに取り組むべき政策があるのでしょうか？

一つの「市民提案」の中に様々な話題を盛り込むことはできません。そういった話題があるのであれば、一つだけではなくさらに多くの提案を書かなければなりません。また、一個人に対して権力が行使されることにかかわる事案、あるいは非民主主義的、人種差別的な内容を扱うことはできません。

ディスカッションしよう

提案の可能性は大きなものですが、すべての提案がコミュニティに受けとめられて、提案通りに方針転換を検討することにつながるわけではありません。なぜコミュニティは可決をしたり、または否決したりするのか議論してみてください。

- ・意志決定者が優先順位をつけざるをえないような、利益相反する事案があるでしょうか？
- ・意志決定者が様々な提案に判断を下す時、どのような優先事項が影響を与えうるでしょうか？
- ・あなたが住む町において、意思決定者にはどのような問題が重要でしょうか？
- ・あなたの学校、コミュニティ、そして国に政治的な影響を及ぼすには、どんな方法があるでしょうか？

考えてみよう！

提出された「市民提案」は公的文書として扱われます。つまり、誰もが自由にそれを読んだりコピーをとることができるということです。提案を提出した人の名前もまた、市町村のウェブサイトにおいて公表される記録及び議案として記載されることになります。

その後の経過をフォローしましょう！

「市民提案」が提出されるとコミュニティ（市町村）議会は、会合の場においてその事案を取り上げ、どの行政部署がその提案について決定を下すか選びます。

365 日以内

コミュニティはすべての提案を一年以内に調査する義務を負います。提案が議題にかけられたら、直ちに提案者は、コミュニティが提案に沿って方針転換をするかしないかの決定を受け取ることになります。

ときには、「市民提案」を書いた人が、実際にその提案が取り扱われることになる会合の前に、政治家たちの前でそれを発表するチャンスを得ることがあります。その場合、それは口頭であるいは書面で行うことになります。

ヒント

「市民提案」はコミュニティに影響を及ぼすたった唯一の方法ではありません。もし、コミュニティが「市民提案」を受け取らないのであれば、皆さんのコミュニティの意思決定者にどんな方法で影響を及ぼすことができるか、教室でディスカッションしてみてください！

学習事例

私たちは学校における政治の取組に、様々な形でかかわる人たちにインタビューを行いました。これらのインタビューは新たな発想やインスピレーションを与えるために使うこともできます。しかし、何よりもまず皆さんが学校における政治の取組をどのように進めればいいのか話し合うときの、参考事例および資料として用いることができます。

「学習事例」を用いる時に使える問いかけ

これらの参考事例は、職員のグループでも、または生徒たちと一緒にでも用いることができます。取組を計画するときのインスピレーションとして使って下さい。以下、話し合いの時に使う事のできるいろいろな問いかけが書いてありますので、参考にして下さい。

問いかけよう

—学校で、そして授業の中で、政治的な情報をどのような方法で取り扱うのでしょうか？

—政治家の訪問に向けて、準備はどのようにできていますか？

—政治家たちは学校においてどのように（一緒に）取組を行うことができるのでしょうか？

—私たちは、どのようにしてそれが上手くいくと考えているのでしょうか？そしてさらに上手く行くようにしたいと思っていることはありますか？もっと異なるやり方で行うことができるのでしょうか？

—私たちが、政党が来校するのが大事だと考えているのはなぜでしょうか？

—もし私たちが政党の来校を許可しないとしたら、授業や、学校の民主主義を教えるというミッションや、生徒たちにとってそれは何を意味するのでしょうか？

—どのような方法をとれば、政党が来校することを授業に役立てることができるのでしょうか？

—どのような方法をとれば、政党は民主主義のミッションに貢献することができるのでしょうか？

—来校する政党が学校に貢献するために、私たち教員

にはどんなことが要求されるでしょうか？

—私たちが必要としているものは何でしょうか？

—来校した政党から、私たちは何を引き出したいのでしょうか？

—学校のマネジメントグループ、教員、生徒たちはそれぞれ何を引き出したいのでしょうか？

—定期的に政党と打ち合わせをすることは、学校での秩序やルールを確実に周知させるのによい方法でしょうか？

—限度がどこにあるか知っているという自信がありますか？またもし誰かが、例えば招かれているゲストやある生徒が嫌がらせを受けたなら、そこに割って入って対応することが自信を持ってできると感じていますか？

—あなた自身を嫌がらせを受けるリスクにさらしてしまう場面はありますか？

—あなたが自信をもつためには、どのような知識やトレーニングが必要ですか？

—学校にいるすべての職員が自信を持ち、大丈夫だと感じていますか？それとももっと一緒に検討する必要がありますか？

嫌がらせをものさしに

2014年 インタビュー

— エンマ・アーネバック

エレブロー大学人文・教育・社会科学研究所の教育学准教授。自身の論文『Med kränkningen som måttstock (嫌がらせをものさしに)』(Arneback 2012)の中で、高校が外国人嫌悪にどう対応しているかについて研究。

「学校は価値中立ではありません。なぜなら私たちは学校において、明確な学校が基礎におくべき価値観のミッションを持っているからです。」

学校は外国人嫌悪にどう対応しますか？

— 私がいくつもの学校で観察したのは、学校によって外国人嫌悪への対応の仕方が大きく異なっていたということです。学校における政治ということであれば、ある学校は「学校についての質問はしない」という選択をしていたんですね。学校をできるだけ居心地の良いものに保っていこうとすると、痛い思いをするようなことは避けようとするのです。またそれとは反対に、学校問題というのは社会の中で盛んに議論されている問題で、だからこそ学校の中でもその話題を取り上げる余白があるのが重要だと考える学校もあります。学校は民主主義の競技場であって、たとえそれが難しい問題であっても、授業の中で取り上げる余白を確保すべきだということです。そうすると、そもそも政党を招くか招かないかに関して様々な考え方が出てくるわけです。

— こういうことを、それぞれの学校内だけで行えるような課題にしてしまうと、多くの学校がそういう選択をするというリスクがあります。政党について学び、選挙小屋に行き、しかし、複雑である判断や評価に行き着くことを学校側が危険だと感じるなら、政党を学校に招かない。でも私が思うに、私たちが民主主義のために人間を育成する学校が欲しいのなら、(政党を招くことは)避けては通れないことだと思うのです。

それらの様々なやり方はどんな効果を生み出すのでしょうか。

— 長い目で見れば、この、面倒なことになるのを避けようとするやり方は大変危険だと思うのです。なぜならそれは、社会の中に息づいている政治的な問いかけや道徳的な問いかけが学校の中で問われず、生徒たちや若者がそれを議論する可能性を手にしなということを意味するからです。それと同時にその方法を取るしかない、という場合もあると思います。問われている問題がどんどんと生徒の間に広がり影響を与え、それが生徒が気分を害する危険があるならば、その先どう進めていけば良いかはよく考えなければなりません。こんな事例を知っています。ある学校では生徒たちの感情が高まり、取組を中止することを選んだのです。こういう状態ではこのままうまく進めていくことはできないと判断したのです。決して簡単な選択ではありません、しかし、何も考えずに(政党を学校に招くという)方針にふたをしてしまうとしたら、それはとても危険なことです。

学校としてどんな準備ができるのでしょうか？

— 短期的な側面と長期的な側面の両方があります。「基礎となる価値観」についての問題は常に起こります。学校でどう時間を過ごすのか、そして微妙で繊細なテーマをどう議論するのか。でも、短期的な側面のことを考えるとすれば、十分に準備や研究をし、そして、越えてはいけな線はどこか、表現の自由とは何を意味するのか、一緒に話し合うことが重要だと思います。それによって、生徒たちと共に準備をすることができ、教師自身も話し合いの場を設けることに自信を感じ、話し合いが感情的になったとしても、そこに割って入る心構えもできます。

学校は価値中立ではない、とはどのような意味でしょうか？

— 学校は価値中立ではありません。なぜなら私たちは学校において、明確な学校が基礎におくべき価値観のミッションを持っているからです。

学校において、表現の自由の制限はどこにあるのでしょうか？

—そのことはとても複雑です。なぜなら、学校における表現の自由は学校教育法と差別禁止法にある規定の上に立って定められており、それらの規定は通常の表現の自由の法令よりもより厳しいものなのです。誰かが嫌がらせをされたとか、侮辱的な扱いを受けたなら、学校はそれが続かないようにやめさせるべきですが、それは前もって知ることはできないことです。とある政党の人を自分のクラスに招き入れた時に、誰かが気分を害することになるなど、前もって知ることはできません。しかし、明らかに誰かが誰かに嫌なことを言う、そういう状況は起こり得るものですし、そうなったらそこに割って入る心構えをしなければなりません。つまり、教師である人間はそういった一つ一つのケースや状況に対処するために常にそこに一緒にいる必要があるということです。

学校の中に複数の政党がいるということとの関連で考えた時、クラスにいる教育者は侮辱的な行為が起きないように未然に防ぐためにどのような行動を取れば良いのか、そして、もし起きてしまった時にはどう行動すれば良いのでしょうか。

—まずは、各政党に学校における法令について情報提供すること、そして越えてはいけない線がどこにあるか明確にしておくことがポイントでしょう。政党の人たちが、もし線を越えたら教師である私が止めに入って話し合いを中止しますよ、と知ってもらうようにです。でも、何が侮辱的な行為かどうか、そこに教師はどう対応するかについては、それを感じ取ることが重要です。おそらく「あの一、私は侮辱的な扱い

を受けていると思います」とは誰も言わないでしょう。そこは、教育者の立場にある人間がその状況から感じ取らなければならないところなのです。

外国人嫌悪への良い対応とは、どのようなものでしょうか？

—それは、私がかかわるのがどのようなグループあるいは生徒たちなのかによるところですが、何かにたどり着くために、また、他の人の話に耳を傾け、議論し、主張を進展させるために、私は対話（ダイアログ）が常に方法の中心となるだろうと思っています。どんなことを発言するかにかかわらず他の人に聞いてもらっていると感じること、しかし、同時に自分が発する言葉には責任を持つこと。もし私が移民についてネガティブなことを何かいうなら、それは誰にも問われることなくそのままにされるのではなく、吟味され、丁寧に観察されなければなりません。あなたが言っていることはどういうことなのか、どういう事実に基づいているのか、なぜそう言うのか、何を言いたいのか、あなたは誰になりたいのか。ただ言いっ放しにするのではなく、その言葉に責任を持ってもらおうとするとき、教育する立場の人として使える問いかけはたくさんあります。

ナッカ高校

2014年 インタビュー

— カーリン・トステンソン（フィエル高校教師）

フィエル高校は在校生120名。アルペン、クロスカントリー、バイアスロンなどのスキー競技に力を入れている。カーリンは以前、ナッカ高校に教師として勤務していた。ナッカ高校はストックホルム郊外のナッカ市にある、大きめの高校である。

「時には割って入って『止め!』と言う勇気がなければいけません」

例えば長机に並べてある各政党のパンフレットに書かれているメッセージからどのように問題点を読み取るのか、それについてカーリンは上のように語りました。

— 私はいつも、一方ではそう考えることができるけれども、他方、そう言うふうに批判することもできる、と言います。そして私はふつう、テキストを読んであなた自身はどう感じますか、理にかなっていると思いますか、と問いかけます。そういうふうに、生徒には自分自身を振り返って考えさせるように努めています。大切なのは、生徒たちがどういう考えに行き着くのかではなく、それをなぜそう思うのか熟考できること、つまり、自分自身がそう考えているのはなぜなのか?と自問自答することです。たとえば、どうしてその政党に投票しようと考えているのですか?それがなぜ良い政治なのですか?という問いを返すようにしています。それによって生徒たち自身がよく考えるようになるのです。

いつもディベートを用いた授業をどう実施していますか?

— 事前の学習が大切です。各政党とそのイデオロギーを一通り知っておくこと、そうすれば、生徒たちは各政党が何を主張しているのかがわかります。社会の中で問われるべきことは何かについて一通り

知っておき、また前もって、各政党はそれらのことについてどう主張するか、またそれはなぜなのかについて話し合っておきます。こうすることで、生徒たちはディベートについていくことがより簡単になります。

— 私はいつもディベートの前に、生徒たちに各政党への質問を小さめの紙に書かせます。なぜなら、すべての人がディベートの最中に質問を投げかける勇氣があるわけではないからです。これまでに幾度となく生徒主導のディベートをやってきましたが、生徒たちはその紙切れを見ながら質問をしています。質問のテーマを絞ることは良いことで、そうでないとディベートは簡単にドラドラとテーマから逸れてしまいます。ディベートのテーマは私と生徒と一緒に決めます。ディベートで取り上げられるのは、たとえば若者の失業率などです。

政党ディベート大会をどう実施しましたか?

— 各政党には通常、2分間で自分の政党とその基本のイデオロギーを紹介するところから始めてもらいます。進行リストがあることはとても良いことです。まず初めに、ディベートがどう進んでいくのかを確認します。ディベートを実施する上で守るべき留意点について取り上げます。たとえば、ブーイングはなし、拍手はディベートの終わりまでとっておくことなどです。

— 時には、割って入っていき、ストップをかける勇氣がなければいけません。生徒たちがディベートをリードするのならば、その生徒たちには、しっかりと強めのリードをしなければいけない、という心構えをさせます。生徒を進行役にしてやってきましたが、これまで、考えられないほどとてもうまくいっています。ディベートの後に各政党がそこにとどまることができればとても良いことです。たくさんの生徒が続けて質問をしたいはずですから。

国会に議席を持つすべての政党がディベートに招待されました。時々ディベートは熱を帯びますが、カーリンはそれをポジティブにとらえることを選びます。

—私はつねづね言うのですが、何かに関心を持つことは重要なことで、そうすればそれが熱を帯びることもありえます、しっかりと取り組むとそれは強い感情を引き起こすのです。そのことは私はポジティブなものとして強調します。なぜならそれは関心があるということを示しているのですから。

事後学習は同じように重要です。彼女はディベートの後で、生徒たちと振り返りをし、それぞれの政党が何を語っていたか黒板に書き出します。そうすることで、すべての生徒がそこで何が論じられたか理解するチャンスがもらえます。

—こういう生徒はいつもいるものです。「何のことだかさっぱりわからなかった」と。全部の政党が若者の失業率を減らしたいと言いますが、実際のところ彼らは何をしたいのか？その方法は政党間によって食い違っています。

また私たちはいつも、各政党はどのように討論していたか、自分たちのメッセージを伝えるために何をしていたかについてディスカッションします。もしある政党が何かを言って、その何かが私にとって合理的ではないものに感じたら、いつもチェックしておいて、あとでそのことを生徒たちに紹介します。またはこう言います、このことについて考えてみましたか？これってつまり一体どういうことなのでしょう？

資料批判について話をする時いつもどのようなにしていますか？

—資料批判について言えば、私は基礎から始めます。一部の生徒たちは、ホームページがカッコよければそこに載っていることも本当だと思っています。ですから、何が信じるに値することか、というあたりの基礎的なところから始めるべきです。それはただ、真実か嘘かということ扱うのではなく、その間にある事柄を扱います。各政党によってそれは大変はつきりします。

すべての政党が彼ら自身の真実を持っているわけですが、それをどうやって評価できるのでしょうか？

—私たちはまた、誰がその政党を支持をしているか、なぜ情報を皆に示しているのか、それはお金をもらうためなのか、それとも選挙に勝つためなのか？政党が情報を歪めて伝えていると思えるような理由があるか、ターゲットグループは誰か、そしてそれがどう影響するか？書かれていないことは何か？生徒たちにはいつも、同じ話題について書いてある一つのニュース記事と一つのブログを比較するという課題も出ます。できればぜひ今現在よく論じられている事例、たとえばシリアでの戦争などを取り上げると良いです。

レカーネ高校

2014 年 インタビュー

—ウルリカ・ヨハンソン（社会科・歴史の教員）

—ヨハンナ・カールソン（生徒会役員会会長）

エスキルストゥーナにあるレカーネ高校には約1400人の生徒が在籍し、定期的に政治家とのディベートを計画・準備、実践してきた実績がある。

「起きていることが自分に関係していると感じれば人はもっと耳を傾けるのです」

原則としては毎年ディベートが計画、準備され、だいたい社会科の教師たちがディベートを企画します。でも、何をディスカッションするか決めるのは生徒たちです。毎回のディベートでは通常、4つのテーマが取り上げられます。招待されるのは国会に議席を持つ政党に限られます。見ている人たちが積極的になれるように、何度か市議会からmentimeter のボタン（リアルタイムにアンケートが取れる電子機器）を借りたことがあります。

—「聴衆がその場においてディベートをしている政党に投票することによって、そこで話し合われたことの結果を得ることができるのです」とウルリカは語ります。

ディベートは彼らが「フラムゴンゲン（Framgång）」と呼んでいる、学校の中心部にあり、カフェなどもある場所で行われます。ディベートの前に社会科の教員たちが生徒たちにヒアリングをし、何を知りたいか質問をします。また各政党にも、ディベートの後にそこに残って、ディベートにつながる展示コーナーを設けるよう勧めています。

—いくつかの政党は残りますが、いつもすべての政党が残るわけではありません。そこで今年ちょっと話し合ったのは、政党が短時間でできる、「5分だけスピーカー・コーナー」を設けることです。そこで、各政党の人たちは立って、自分の政党についてプレゼンテーションができるのですが、この方が、生徒たちがそこへ

やってきて自分から質問を投げかけるのに、とってもやりやすいのです

—とウルリカ・ヨハンソンは語る。

前回やってきた一人の政治家にはディベートの代わりにヒアリングを企画しました。その時には生徒会がすべてのセットアップを計画しました。開催場所にはいくつかのソファが置かれ、生徒会役員会の二人の男子生徒がヒアリングを行いました。ヒアリングが行われている間、すべての生徒は、そこで聴衆として見ている者であれ、そこを通り過ぎる者であれ、自分が答えてほしい質問を、テキストメッセージで送ることができます。

—うまくいきました、けっこう良い質問が来て、その場ですぐに取り上げました。そこに聴衆として座っている生徒たちは、今そこで起きていることに自分が関わっていて、またそこに影響できると感じられるので、それは良いことです
—と語る、生徒会役員会会長のヨハンナ・カールソン

アクティブに参加するということは重要なことでしょうか？

—そうだと思います。そうでなければ、生徒たちは簡単に自分にできることはない、と考えるでしょう。もし遠くで起きていることに自分が関わっていると感じるなら、もっと耳を傾けるようになるでしょう。

政党が来校することは重要なことでしょうか？

—ええ、そうだと私は思っています。多くの若者はどのように政治が行われているあまりわからないし、政党についてもそうです、しかし、学校は物事を学ぶところであり、政治を、偏らないやり方で学ぶ良いプラットフォームです。そうすれば、自分自身の理解を深めることができます。特に今年は選挙の年で、多くの生徒が投票できますし。

トゥーレソー高校

2014年 インタビュー

—エバ・スヴェンソン（教頭）

—イエスペル・エングストローム（社会科と宗教学の教員）

トゥーレソー高校は2013年の秋学期以来、毎月決まった日を資料・パンフレット等の展示コーナーの日としています。毎月第一月曜日の11時から13時の間すべての政党が、来る前に連絡をよこす限りにおいて、歓迎されます。

「トゥーレソー高校では、一ヶ月に一度、すべての政党を歓迎します」

すべての政党が毎月くるわけではありません。展示コーナーを開くのは、だいたい政党青年部の党员で、その一部はかつてここに在籍していた生徒です。

—それぞれの政党は、私たちが廊下に置く机を一つ割り当てられます。ですから、生徒たちは政党の間をぐるりと回って見るができます。生徒と教師の両方が、定期的に政党が来ることを知っているのも、教師たちは授業の中にそれを織り込むことができ、またはそこへ余計に何度か足を運ぶことができます。私は、毎回たくさんの政党にぜひ来て欲しいと思っています、そうすればもっと授業に使うことができますから。でも、彼らが来るように指示することはできません。

どのようにして、毎月決まった日を設定するという考えに至ったのですか？

—それは、一つの議論から始まりました、政党がぜひ学校に来たいと思っている、と。それで、私たちは学校教育法を読み、すべての政党を招待するか、すべて招待しないかと解釈しました。私たちはすべての政党が集まることを望みました。そうすれば、例えば、外国人嫌いの政党だけが取り残されるようなことを防ぐことができると思ったのです。

—決まった日があるということは長所となって

います。なぜなら準備の時間が十分にあるからです。校長としては、政党が来校する時には常にトラブルを恐れるのですが、これまでトラブルは発生していません。何年か前にストックホルムの一部の学校でトラブルがあったので、その時は私たちも念入りに準備をしました。

政党が学校を訪問するとき何に留意することが重要ですか？

—政党が来校することをその他の状況と関連づけて文脈化することです。他の教員と確実に連携をとり、想定外のことをなくし政党の来校に備えることです。

政党が学校に来ることができるのは重要ですか？

—政党と生徒の両者にとって重要です。政党にとっては、政治家たちの集まりに普通は参加したいとは思わない若者と対話をするができます。生徒たちにとっては、政治家に直接質問をできるので重要です。

決められた日に展示コーナーを設けることには長所と短所の両方があると、イエスペルは考えます。

—私が良いと思うのは、政党とイデオロギーの学習に取り組むとき、教員は生徒に課題を与えて、政治家と直に話し合うきっかけとなることです。しかし、もし月曜日にその授業がなければ、展示コーナーがいつも月曜日にだけ設けられるのは問題です。もし私の授業が火曜日にあり、他の授業があるにも関わらず生徒たちに月曜日に課題を課すのは難しいでしょう。(イエスベル)

イエスベルが一番いいと思うのは、何年か前に実施された若者協議会です。生徒たちはそこでコミュン(市町村)の政治家たちに会って様々なテーマについて話し合うことができました。若者協議会は政治家と学校の教員と協力して企画されました。

—生徒たちは、事前に何に関心があるか意見を述べ合い、そしてそれを一つにまとめて紹介しました。例えば、地元の問題、環境や経済の問題。すべての政党から代表する政治家がーか所に集まり、集まりの前に十分に準備ができる時間があることが理想的です。

どのように準備をしますか？

—生徒たちに様々なテーマの授業をします。その後、生徒たちはグループに分かれ、各政党がそれぞれのテーマについてどういう立場を取っているかを比較します。生徒たちは各政党に質問を用意します。準備ができているのは良いことです。質問をする勇気が出るので。

ヴェルムドー高校

2014年 インタビュー

—アルネ・アンデション（校長）

ヴェルムドー高校はその名前にもかかわらず、ストックホルムのグルマシュブランにある。この高校では、総理大臣とノーベル賞受賞者の両方が訪れている。

「私自身も様々な考え方がある中で何を重視すべきか葛藤がありました。そして私はそれでもなお、憲法が重視する規定に重きを置かなければならないと判断しました」

2010年、この学校は国会に入っていない（極端な意見を持つ）小さな少数政党の来校を許可し、資料やパンフレットの展示コーナーに参画させることになりました。その結果、校門の外側でその政党と政党に反対する生徒たちの間で小競り合いが起きることとなりました。校長であるアルネは小競り合いをする人達を引き離そうと割って入った人の一人です。その後、彼は自分が下した決断を守り抜き、今日に至ります。

—私たちは、すべての政党に等しく情報提供の機会を与えるべきだと言い続けてきました。なぜなら、それは憲法で保障された権利だからです。これは決して容易な決断ではありませんでした、多くの学校が彼ら（極端な意見を持つ少数政党）が来校することに「NO」と言いました。この学校にいる大部分の人もまた、彼らが学校に来て参加することを拒否するべきだと考えていると思います。

しかし、私は、自分の校長としての役割は憲法に定められた権利を大切にすることだと感じたのです。たとえそれが不快なものであってもです。もちろんただ「ダメ」だというのはたやすいことでした。しかし、最終的には彼らは来校できるようになりました。そして警察も来校しました。以前に騒動が起きたので、今回もそういうことが起きるだろうと察したからです。しかし、騒動を起こしたのは当校の生徒たちではなく、他からやって来た人でした。

—その後、当校では、多くの話し合いを重ねてきました。それらの政党を来校させることは正しかったのか？私は、すべての教職員とすべての生徒たちに説明しなければならないと感じました。大切にすることが重要な一つの原則に「表現の自由」があり、それが自分の取る立場だということです。そして私は今もそう思っています。

校長は講堂に、説明を聞きたい人たちを呼び集め、その政党に門戸を開いた際に何を考えたのかを説明しました。講堂にはラジオやテレビ関係者も来ました。起きた騒動がメディアに大きく注目されたからです。

生徒と教員からの反応はどうでしたか？

—多くの人々が、この政党からのこのメッセージで気分を害していました。その必要はありませんでした。そのことはすべて承知しています。私自身も様々な考え方がある中で何を重視すべきか葛藤がありました。そして私はそれでもなお、憲法が重視する規定に重きを置かなければならないと判断しました。しかし、それなら違う方法をとることもできたのだと気づいたことが、私たちが学んだことでした。

—また別の機会にこれまた別の政党で、同じくらい過激な考え方の政党が学校を訪問することになりました。今回は私たちは違ったやり方を試すことにしました。彼らの展示コーナーを、皆が通る吹き抜けの広いホールに設置するのではなく、学校の最上階にある特定の場所に設置し、興味のある人がそこに行けるようにしたのです。

この方法はずっとうまくいきました。もしある政党が、学校で用意した手はずを無視し、生徒たちが気分を害する危険があると察知した時には、このようなやり方で対応することになります。

政党が学校を訪問した際に、望ましくないことが起きるかもしれない事態に備えて、学校はどのような準備ができると考えていますか？

—よくよく熟慮することです。学校で準備している手はずが無視されないかどうか、気分を害する可能性があるかどうか、そういうことに対して何かしらの手を打っておかねばなりません。そのようなことに遭遇したくない人たちが、避けることができるようにするのです。

トランエングス学校

2014年 インタビュー

-ジョニー・アクセルソン(中学部の校長)
-イングリッド・ビョールク(ユース・カウンセラー)

「継続的に開催されるようになることは大変良いことだと思っています。そうすれば必ずうまくいきます」

トラネモー市では、「政治家とランチ」という企画を実施することを決めました。これは中学校と高校の両方で開催されます。政治家と市の職員と学校が協力して取り組み、市議会の議員たちが学校にやって来て、一ヶ月に一度、生徒が昼食を共にするという企画です。政治家たちはその席上で、自分の政党を代表するというよりかは、何よりもまずは市の議員としての役割を負っています。

—市政はだいたいの場合、いろいろのイデオロギーを主張するよりもむしろ、さまざまな地域の問題を解決するのが仕事です。(ジョニー・アクセルソン)

着想は生徒たちと政治家たちがトラネモー市の住民にとって重要な問題を話し合う機会を作ろうということから来ました。このような形態をとることで、「政治家とランチ」の催しは、生徒や市民の影響力を高めるフォーラム¹⁰として機能します。

—私は、これが継続的に開催されるべきだと思っています、そうすれば必ずうまくいきます。4年に一度の選挙の時だけ政治家が来るようではいけません。継続されるものになれば、生徒たちはより理解が深まり、行事が珍しがられることもなくなります。ジョニーはこう述べ、最初の頃は一部の生徒たちが政治家の隣には座りたがらなかったが、今はそんなことはないと言います。

生徒たちに心構えをさせるために、市からやって来た職員たちは食堂のテーブルに張り紙をします。そこにはまもなく政治家がやって来ること、「政治家とランチ」の今日のテーマは何かということ、どんな話題を話し合うかについて書かれています。

—例えば「選挙の年に政治家でいることはどんな感じですか？」というような話題です。教師たちも心構えができるように教職員室にも張り紙をして、やって来る政治家たちは誰が政治家なのか皆にわかるようにベストを着用します。(イングリッド・ビョールク)

彼女は、この方法の強みは継続されることで発揮されるという、校長の考えに同意しています。

—本当に良い方法ではないかと感じています。そうイングリッドは語る。

10.さまざまな分野やトピックで、若者たちがダイレクトに行政に影響を与える可能性を持たせるための、比較的新しい集会の形。市町村などの公的団体が主催することが多い。

スウェーデン全国生徒組合

2018年 インタビュー

ーリーナ・フルトクヴィスト
(スウェーデン全国生徒組合代表)

「もし政党や政党青年部が学校に来られないとしたら、政治への関心が低くなった私たちの姿を目にすることになるでしょう」

学校で政治について情報提供をすることは、学校に課された「民主主義のミッション」の一部です。だからこそ学校教育法で、校長が政党を学校に招き入れ、教育に反映させることがはっきり明言されているのです。これに対して地域の政党青年部が政党のキャンペーンで学校の生徒と交流しようとしたり、生徒たちが放課後に政党青年部を学校に招き入れたいというのは同じことではありません。なぜならこれらは形式的に考えて、教育の一部ではないからです。

もし選挙を前に、学校として政党を招き入れたり来校を許可するとすれば、どのように考えるべきでしょうか？

ー学校教育法の新しくなった部分を参照すると、政党を学校に招くかどうかの決定は、最終的に校長の責任であるとされています。もし校長または教員が政党を学校に招くのなら、行われる教育に適用されるべき原則がいくつかあります。例えば、取組が十分に時間をかけて計画され、コース計画と学習指導要領にを反映したものである、などの原則です。

選挙の年には、政党への関心が高まり、様々な取組が展開されるので、政治家を招くことは学校にとって良い機会となると思います。政治家たちはプレゼンテーションをしたり、ディ

ベートに参加したり、選ばれた政治家でいることはどういうものを語ったり、と役割を果たすことができます。

ーもし招待しようと思っている政党が来校時に、生徒と接触して党員を増やすことを考えていたら、学校はそれすらも許可するべきだと思います。生徒は学校で多くの時間を過ごしますが、学校は若者が政治に興味を持ったり、政治団体を始めたり、加わったりする場所です。学校は若者にとっての「出会いの場」として重要な役割を持ちます。だから学校は「もちろん!」と言うべきだと思います。

生徒たちを取組に巻き込むためにはどうすればいいでしょうか？

ー生徒と教師による学校全体での対話集会をするべきだと思います。自分たちの学校でやるなら、どのように進めていきたいか話し合うのです。例えば、政党青年部の来校を許可するかどうかなどについてです。もし何かしらの提案に対する賛成や合意があれば、学校はそれをどう扱っていくのか、その方向性を生徒たちと一緒に話し合うべきです。

開催日時や場所が決められることで、生徒は事前に政党を調べたり、関心がない生徒はその場を離れることができます。計画の段階では、すべての生徒を尊重してかわることが大事です。従業のの一部ではないのに、生徒に言うことを聞かせて、政党の人と無理やり話してもらうといったことが起きてはいけません。

学校に政党が来れることは重要なことですか？

—はい。政党が学校に来ることができて、授業の一部ではなく、自由なかたちで生徒に会えることがとても重要です。なぜなら学校の可能性は教室で起きていることだけではないからです。生徒が真剣に取り組む気になり、自らを導く内なる「羅針盤」を発見できる、学校はそういう場として重要です。

だからこそ、政治家が学校に来ることができて生徒たちと対話をし、政党の活動にかかわることを選ぶ若者に出会えるのは重要なのです。もし政党や政党青年部が学校に来られなかったら、政治への関心が低くなった私たちの姿を目にすることになるでしょう。

政党が来校し、もし生徒が気分を害するようなことがあったら、それにどう対処すべきでしょうか？

—学校は違反行為を防止し対処する明確な責任を負っています。学校の訪問を許可された政党が学校の定めた規則に従う必要があること、そこで授業を受ける生徒に嫌がらせをしないことをはっきりさせておくのは校長の役割です。もしそういうことが起きてしまったら、学校はすぐに対処し、その状況を非難しなければいけません。

気分を害された生徒たちは、それが犯罪である可能性もあるかもしれないので、生徒たち

が必要とする助けとサポートを受けられるようにしたり、場合によっては警察に届け出る必要もあるでしょう。

もし、生徒組合が政党を招き入れるとすれば、校長はどのような責任を持つでしょうか？

—生徒が学校に政党を招いて、登校日に何らかの取り組みを企画したいという場合、生徒組合が校長とともに助言することを常に勧めています。。今は、学校への政党の来校についての学校教育庁の新しい副教材が出版されるのを待っています。というのは、校校長が生徒たちに学校施設の利用許可を与えさえすれば、独立した組織である生徒組合が政党の学校への招待をする権利があるかどうかについて、学校教育庁の見解が明らかになるからです。

SVEA スウェーデン全国生徒会

2018年 インタビュー

— ヤーコブ・アムニエル

(SVEA スウェーデン全国生徒会代表)

「つまり学校は、外界から閉ざされた『小さな世界』ではないことを理解するということです」

学校が政党を招き例えばディベートに参加してもらう時に、学校はどんなことを考えるべきだと思いますか？

—最初の出発点は生徒たちの学びと成長です。これが根本です。次に重要なのは、それを一つの文脈の中に置くこと。そして学校にいるすべての人が協力して取り組むことです。生徒は自分たちの意見を政治家に届けることができ、同じように政治家たちは自分たちの考えを発言できるというように、意見交換し合うことが大事です。幅広く様々な意味合いの違いを含むディベートができることが大切です。

あらかじめ学校でディベートの全体像が議論されていること、どの話題や論点を扱いたいか、何に好奇心を持っているか、進行役の役割は何か、ディベートで何を受け入れ、何を受け入れないか、どんな雰囲気や環境が欲しいか、どんな構成にするのか、どのような会場にするか、これらをみんなで協力し合って作り出すのです。

—ディベートのあとは何らかの形でフォローアップがあることが大切です。ディベートに終始するのではなく、ディベートが学びの過程の一部となることが重要です。

取組の中で、生徒が影響力を発揮できるようにするには、どうしたら良いでしょうか？

—私が思うには、生徒たちと話し合うことがその大部分を占めると思います。常にオープンでいることです。一つのやり方としては、学校にある組織を利用することです。生徒会に取組の企画を持って行き、これをやる予定なんですけど、どうすれば一緒にできるでしょうか？と相談をするのです。もしかしたら事前にすべての教室で議論されるべきことかもしれません。

—つまり学校は外界から閉ざされた小さな世界ではないことに、政党を招くずっと前から気づいていないといけないのです。民主主義や影響力について明確な「基本となる価値観についての学習」を実施していれば、生徒は反応できるようになっているのです。良質な「基本となる価値観についての学習」によって、生徒たちは、自分自身にそして自分の意見に、より自信が持てるようになります。そうすれば、様々な話題についてディスカッションをするのもより易しくなるでしょう。

もしもディベートや政治家の来校により、生徒が自分は侮辱されていると感じたり、騒動になりかねない事態となったとしたら、学校が対処する一番の方法は何だと考えますか？

—当然のこととして、予防的な取組は最も効果的です。もしも生徒が前もって一緒になってどうすべきか対策を打てたら、そのリスクは大幅に減ります。生徒と政治家との意見交換をする場を設けるのならば、そこでは、生徒が自分の言葉で影響を与え、問題を指摘できると感じられようような関係性が構築されることになります。予防策を考えるにあたって、政治家の来校時にどういう形でいてもらうのが良いか話し合うといいでしょう。自分たちの学校の条件から考えると、どういうやり方が最も適しているのか？

—万が一何かが起きたときに大事なものは、学校で対応策が練っており、教員が、学校に課された民主主義のミッションに基づきどんなディベートを取り上げたら良いか、理解し自信を持っていることです。本当に深刻なことが起きたとすれば、それはもはや学校内部の問題ではありませんから、外部からの助けを借りてかまいません。

—もしもの事態に備えて、生徒と協力してわかりやすい対策案を練っておく必要があるでしょう。そういう事態にならないように、全ての人が参加し連帯して責任を持つことができるのです。

それはどのような対策になるでしょうか？

—部分的には、生徒や来校する政党がどう振る舞うかを想定し、前もって話し合っておくということです。何が起こる可能性があるか、例えばディベートが想定していない流れになり進行役がなんとか手を打とうとしてもうまくいかない時にはどうするのか？ディベートを中止するのか？誰かをディベートから退場させるのか？といったことなどです。その場にいるすべての関係者間に信頼感があることもまた重要になります。

政治家が来校した時に、少し扱いが難しいような議論になったとしても問題はないということでしょうか？

—結局、いい機会になると思いませんか？性差別や人種差別を表面的に対処することではできないはずです。そうではなく、そういうことを議論することが必要なのです。そのような激しい議論をすることは、自分の考えを形成・再形成するにはとても良い基礎となるかもしれません。

—そのような議論に備えて、進行に自信のある教員がいること、そして学校は価値中立ではなく、いくつかの価値観——全ての学校がそれに立脚し、またそれを備えていることを期待されている価値観があるのだということを肝に命じておくことが最も重要です。

インタビューから 学べること

ここではインタビューから浮き上がった「学校における政治」に取り組むときの教訓と経験を紹介します。

- ・よく準備されていること。
- ・すべて授業と同様に丁寧に企画して、生徒も理解できるように目的を明確にすること。
- ・生徒たちには前もって、その取り組みの目的が何なのか、情報を与え説明すること。出来の良し悪しを、あとから振り返ること。
- ・全教職員とすべての社会科教員で、それぞれがどのような役割を分担し成功を目指すか話し合ひましょう。そして、結果が予想通りであったかどうか評価をしましょう。
- ・それぞれの担当科目や取組にディベートを関連づけることもできます。建築学科に通っているのであれば、EU（欧州連合）と就労のための移動の権利について議論をすると面白いでしょう。メディア学科に通っているのであれば、その他のトピックの方が興味を引くかもしれません。
- ・枠組み（手はずや条件）を整えるのはあなたであること。自分の教室に政党がやってくるのであれば、決定権は自分にあることを政党に対してはっきり伝えておくこと。
- ・ディベート時に、学校が基礎に置く価値観に相反する意見／考えが出されたときには、それをとりあげて話し合うこと。例えば人種差別について話し合うことを避けないでください。

・生徒たちに検討課題を選んでもらうのは重要です。どのような論点を自分たちは取り上げたいか、自分たちに関連のあることは何か、政治家たちに必ず答えてほしいことは何か、自分たちがどのような形式を望むのかも決めてもらいましょう。

パネルディベートも良いですが、学校の中で政治家と話をするのに、それだけが必ずしも良い形式とは限りません。なぜなら、そうすると政治家は自動的に壇上に上がることになり、意見交換は双方向的であっても、生徒よりも政治家のほうが上の方に位置することになるからです。

・忘れないようにしたいのは、意見やイデオロギーを一方向的に評価・判断しないということです。あまり議論されていない新たなテーマを扱う時には、正しいことができるようになるために、間違っただけをし、またそれを許される必要があります。例えば「まとはずれな質問」をしたりです。

・ディベートなどのイベントが行われる時、質問の時間を評価の時間にしないようにしましょう。なぜなら、質問が評価されることを生徒が知ると、勇気を持って聞こうとしていた質問に影響が出るかもしれないからです。課題としてとりあげたりするのは、事後にするようにしましょう。

参考資料

- Förskolans och skolans värdegrund – förhållningssätt, verktyg och metoder (2013). Skolverket
 - Lika rättigheter i skolan – handledning (2012). Diskrimineringsombudsmannen
 - Att bygga en demokrati i skolan (2012) Anna-Lena Lodenius. Föreningen Ordfront & DemokratiAkademien
 - Bryt! Ett metodmaterial om normer i allmänhet och heteronormen i synnerhet (2011, tredje upplagan). Forum för levande historia & RFSL Ungdom
- 若者市民社会庁(MUCF)の文献・資料
www.mucf.se
- Ungdag.se – statistik om ungas livsvillkor
 - Unga med attityd 2013 – Ungdomsstyrelsens attityd- och värderingsstudie
 - Fokus
 - Öppna skolan! Om hbtq, normer och inkludering i årskurs 7–9 och gymnasiet
- ウェブサイト
- Skolverket – Politisk information i skolan
www.skolverket.se/regelverk/mer-om-skolans-ansvar/politisk-information-i-skolan
 - Skolverket – Undervisa om kontroversiella frågor
www.skolverket.se/skolutveckling/vardegrund/utveckla-undervisningen/undervisa-om-kontroversiella-fragor-1.257318
 - Skolverket – Om värdegrund i förskola och skola
www.skolverket.se/skolutveckling/vardegrund
 - Skolverket – Kolla källan
www.skolverket.se/skolutveckling/resurser-for-larande/kollakallan
 - Riksdagen
www.riksdagen.se/sv/Start/Startsida-Larare
 - Europeiska kommissionen
<https://europa.eu/teachers-corner>
 - Forum för levande historia
<https://www.levandehistoria.se>
 - UR www.ur.se
 - Skolinspektionen och BEO
www.skolinspektionen.se/beo
 - Rollspelet: Demokrativerkstaden i klassrummet – ett rollspel från förslag till lag
www.riksdagen.se/sv/larare/demokrativerkstaden-i-klassrummet
 - Rollspelet: Det levande valet – ett fängslande och pedagogiskt rollspel om Europaparlamentsvalet och riksdagsvalet. Sveriges elevråd –SVEA och Sverok (2014)
<https://www.detlevandevalet.se>

引用文献

- Alexandersson K. (2016). Källkritik på internet. Stockholm: IIS, Internetstiftelsen i Sverige
- Arneback E. (2012). Med kränkningen som måttstock – om planerade bemötanden av främlingsfientliga uttryck i gymnasieskolan. Örebro universitet.
- Broms J. & Darj F. (Red.) (2010). Normkritisk pedagogik – Makt, lärande och strategier för förändring. Uppsala: Centrum för genusvetenskap, Uppsala universitet.
- Forum för levande historia & RFSL Ungdom (2011). Bryt! Ett metodmaterial om normer i allmänhet och heteronormen i synnerhet (tredje upplagan). Stockholm: Forum för levande historia & RFSL Ungdom.
- Lacinai A. (2009). Moderera mera. Koala Publishing.
- Lodenius, A.-L. (2012). Att bygga en demokrati i skolan. Stockholm: Föreningen Ordfront & DemokratiAkademin.
- Mediekompass & Statens medieråd (2014). Expert på medier – medie- och informationskunnighet i Lgr 11.
- Myndigheten för ungdoms- och civilsamhällesfrågor (2015) Öppna skolan! Om hbtq, normer och inkludering i årskurs 7-9 och gymnasiet. Stockholm: MUCF
- Pihlgren A. S. (2012). Demokratiska arbetsformer – värdegrundsarbete i skolan. Studentlitteratur AB.
- Regeringens skrivelse 2013/14:191 Med fokus på unga – en politik för goda levnadsvillkor, makt och inflytande
- Regeringens proposition 2017/18:17 Politisk information i

skolan

- Skolinspektionen (2012). Skolornas arbete med demokrati och värdegrund. Kvalitetsgranskning. Rapport 2012:9. Stockholm:Skolinspektionen.
- Skolverket (2010). Skolor som politiskaarenor. Medborgarkompetens och kontrovershantering. Stockholm: Skolverket.
- Skolverket (2013a). Forskning för klassrummet – vetenskaplig grund och beprövad erfarenhet i praktiken. Forskning för skolan. Stockholm: Skolverket 2013.
- Skolverket (2013b). Förskolans och skolans värdegrund – förhållningssätt, verktyg och metoder. Stödmaterial. Stockholm: Skolverket.
- Skolverket (2015). Systematiskt kvalitetsarbete för skolväsendet. Skolverkets allmänna råd med kommentarer. Stockholm: Skolverket.
- Skolverket (2016). Läroplan för grundskolan, förskoleklassen och fritidshemmet 2011 (reviderad 2016). Grundskolan. Stockholm: Skolverket.
- Statistiska centralbyrån (2013). Folkvaldas villkor i kommunfullmäktige – en studie om representativitet, avhopp och synen på uppdraget. Demokratistatistik rapport 15. Örebro: SCB 2012.
- Sveriges Kommuner och Landsting (2018.) Politiska partier i skolan – Vad gäller? Stockholm: SKL.
- Thurén T. (2013). Källkritik. Liber AB.
- Ungdomsstyrelsen (2010a). Upplevelsebaserat lärande – Pedagogik. Elektronisk källa: www.mucf.se
- Ungdomsstyrelsen (2010b). Fokus 10 – En analys av ungas inflytande. Stockholm: Ungdomsstyrelsen.
- Ungdomsstyrelsen (2013). Unga med attityd 2013 – Ungdomsstyrelsens attityd och värderingsstudie. Stockholm: Ungdomsstyrelsen.

lagar

- Skollagen (SFS 2010:800)
- Svensk författningssamling (1974:152)

elektroniska källor

- Barnombudsmannen Barnombudsmannen (2009). Jag vill säga något. www.barnombudsmannen.se/globalassets/systemimporter/publikationer/2/jvsn_rod_2009.pdf
- Diakonia www.diakonia.se/Engagera/Vardenin_gsovningar/
- IIS, Internetstiftelsen i Sverige www.iis.se/lar-dig-mer/quider/kallkritik-pa-internet/
- Myndigheten för ungdoms- och civilsamhällesfrågor www.ungidag.se www.mucf.se
- Skolverket www.skolverket.se/regelverk/mer-om-skolansansvar/politisk-information-i-skolan www.skolverket.se/skolutveckling/resurser-for-larande/kollakallan www.skolverket.se/skolutveckling/vardgrund/utveckla-undervisningen/undervisa-om-kontroversiella-fragor-1.257318 www.skolverket.se/skolutveckling/kvalitetsarbete
- Statens medieråd <https://statensmedierad.se/larommedier/mikformigdigitalutbildning.1871.html>

- 轡田いずみ（くつわだ・いずみ）

(株)ノルディック・インスピレーション代表。北欧の教育・学び リラ・トゥーレン主宰／「ぼくが小さなプライド・パレード 北欧スウェーデンのLGBT+」 訳者。上智大学法学部国際関係法学科卒。在学中、スウェーデン・ウプサラ大学に留学。リコー、ベネッセでの勤務を経て2015年に独立、現在は主に北欧企業/ブランドの日本展開を支援している。

- リンデル佐藤良子（りんでる・さとう・りょうこ）

教育ジャーナリスト、公認ストックホルムガイド 専門領域：スウェーデンの教育
福島県で公立高校教師として長く勤務、地歴公民科など担当。北海道大学大学院およびストックホルム大学院卒業、教育学修士。専門性を生かし、スウェーデンにて日本からの教育関連視察をコーディネートしている。

- 両角達平（もろずみ・たつへい）

88年、長野県出身。静岡県立大学CEGLOS・文教大学付属生活科学研究所（客員研究員）駒澤大学・文教大学（非常勤講師）。ストックホルム大学教育学研究科（国際比較教育専攻）修士。専門：スウェーデン/EUの若者政策、若者の社会参画。 ブログ Tatsumaru Times <https://tatsumarutimes.com>

政治について 話そう！

Prata Politik 日本語版

（非公式訳）

著者 スウェーデン若者市民・社会庁
発行 第一版 2018年8月

訳者 轡田いずみ・リンデル佐藤良子・両角達平
公開 2020年3月

本書はの翻訳は、スウェーデン若者市民社会庁（mucf）より許可を得ていますが、日本語訳の確認ができないために「非公式訳」となっております。

冊子版を希望しますか？

「政治について話そう！ Prata Politik 日本語版」を紙媒体の冊子にすることを検討しています。つきましては、冊子化のニーズを検証するために、以下のウェブアンケートにご協力ください。

「政治について話そう！ Prata Politik 日本語版」
冊子化ニーズ調査アンケート

<https://forms.gle/6WeHX29j8KRCbWK69>



※ スマートホンから回答も可能です→

冊子化の希望者が一定数に達しましたら、クラウドファンディング等をおこない冊子化に踏み切りたいと考えています。メールアドレスを登録いただいた方には、クラウドファンディング等の実施が決まり次第、いち早く情報をお知らせいたします。いただいた情報は、上記ご案内の用途に限定して使用いたします。